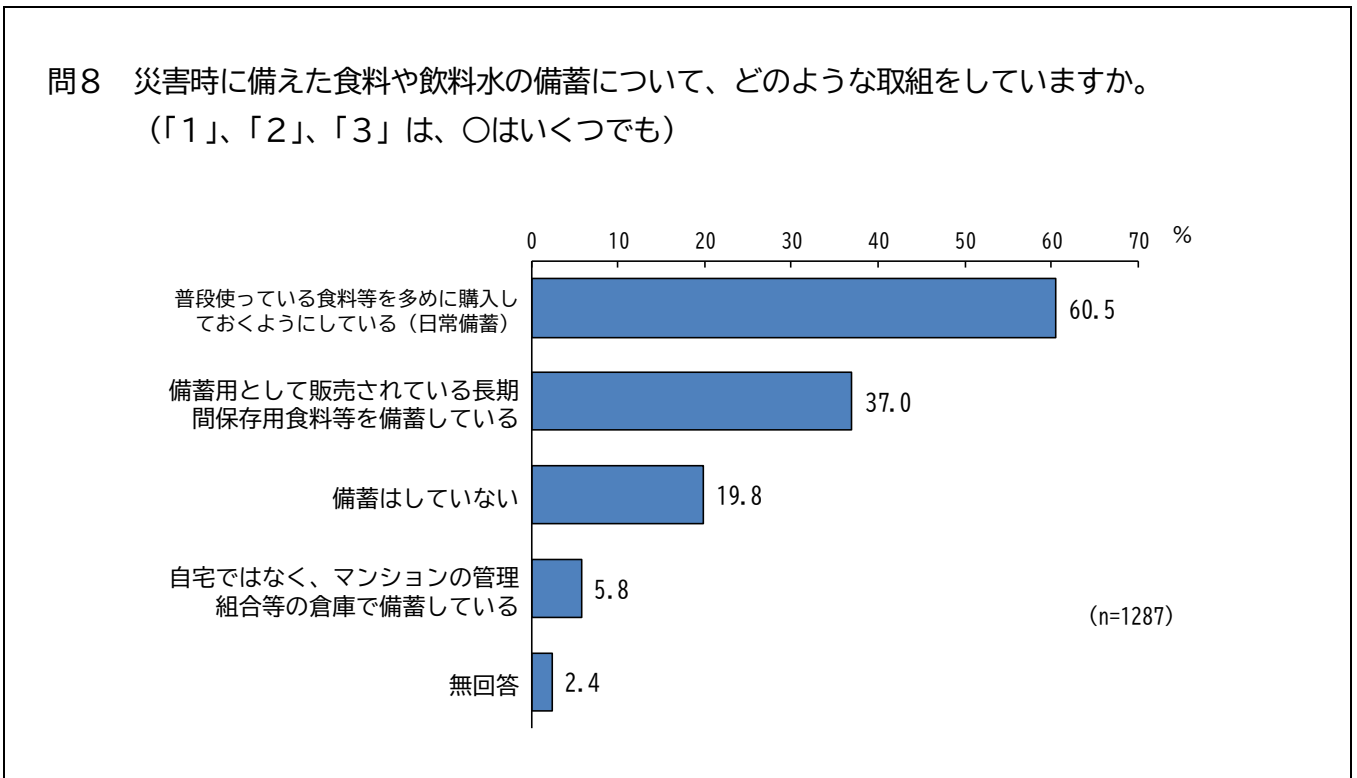


3. 防災対策

(1) 災害時に備えた食料や飲料水の備蓄

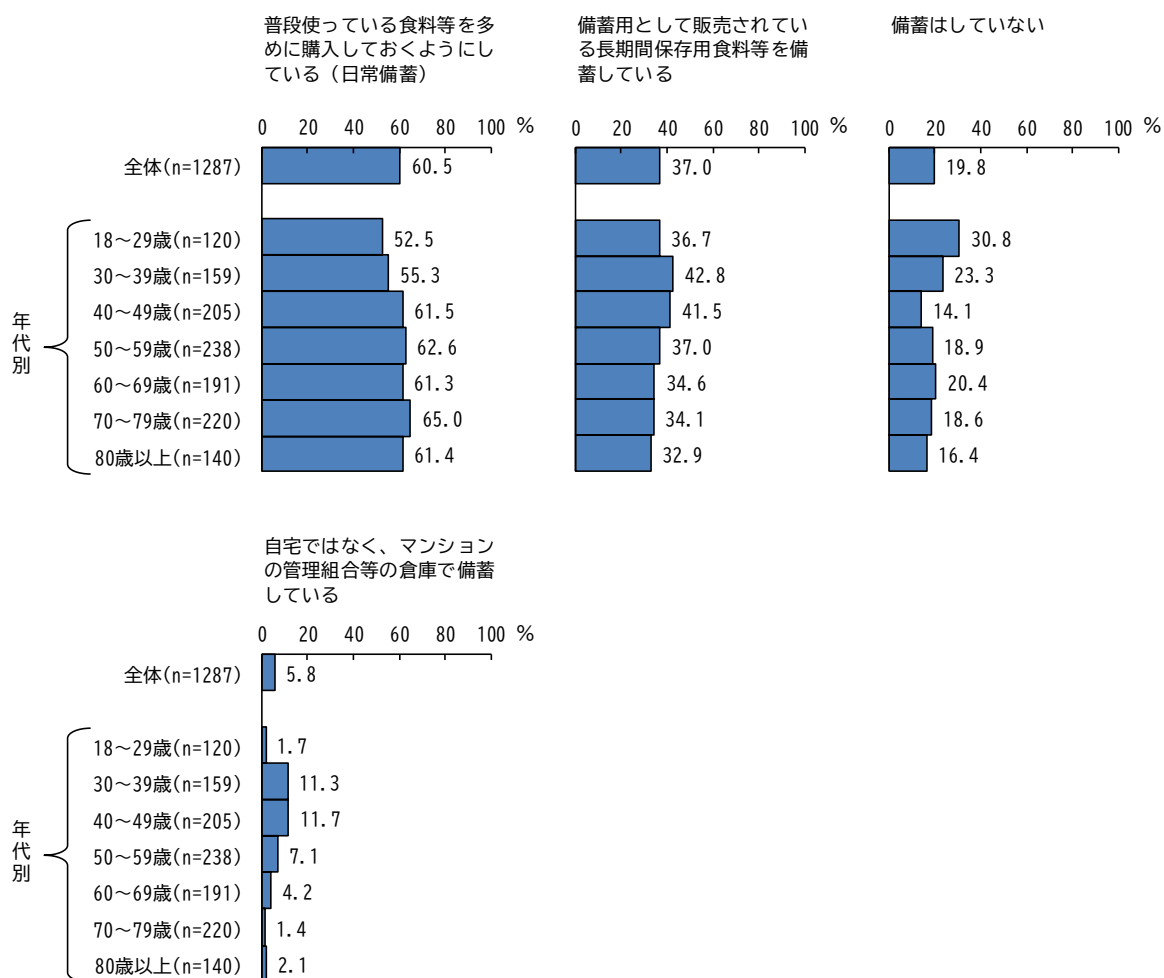
◇「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」が6割



災害時に備えた食料や飲料水の備蓄について聞いたところ、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」（60.5%）が6割で最も多く、次いで「備蓄用として販売されている長期保存用食料等を備蓄している」（37.0%）が3割半ばを超えている。

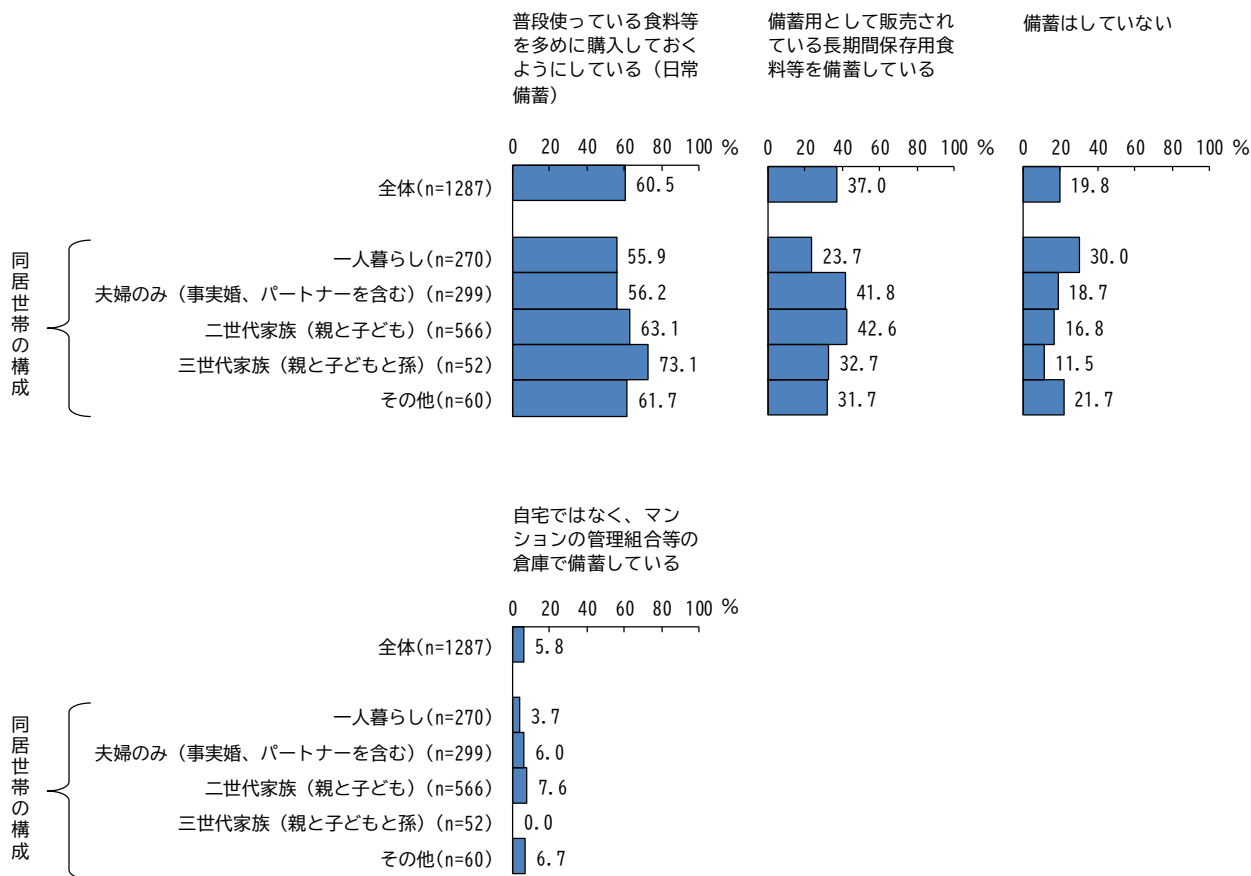
年代別でみると、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」では、18～29歳（52.5%）が5割強と最も低く、70～79歳（65.0%）が6割半ばと最も高くなっている。「備蓄はしていない」では、18～29歳（30.8%）が3割と最も高くなっている。

災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 年代別



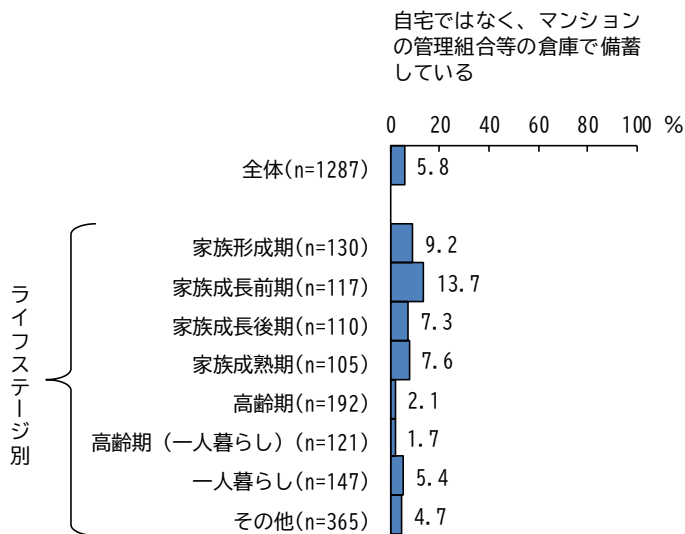
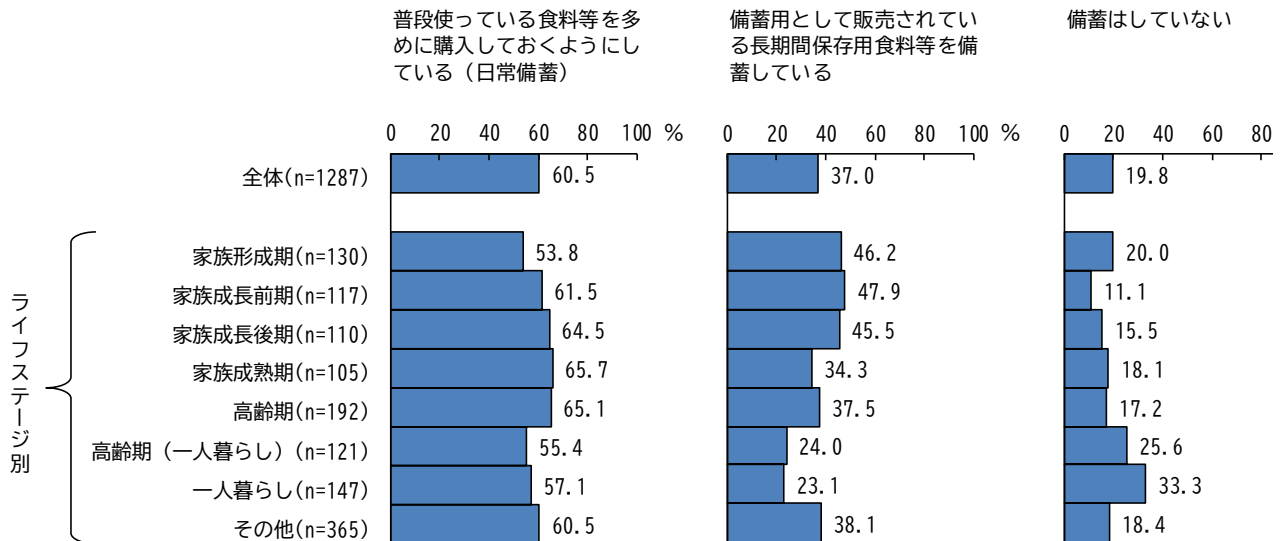
同居世帯の構成別でみると、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようになっている（日常備蓄）」は三世代家族（親と子どもと孫）（73.1%）が7割半ば近くと最も高くなっており、「備蓄はしていない」は一人暮らし（30.0%）が3割と高くなっている。

災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 同居世帯の構成別



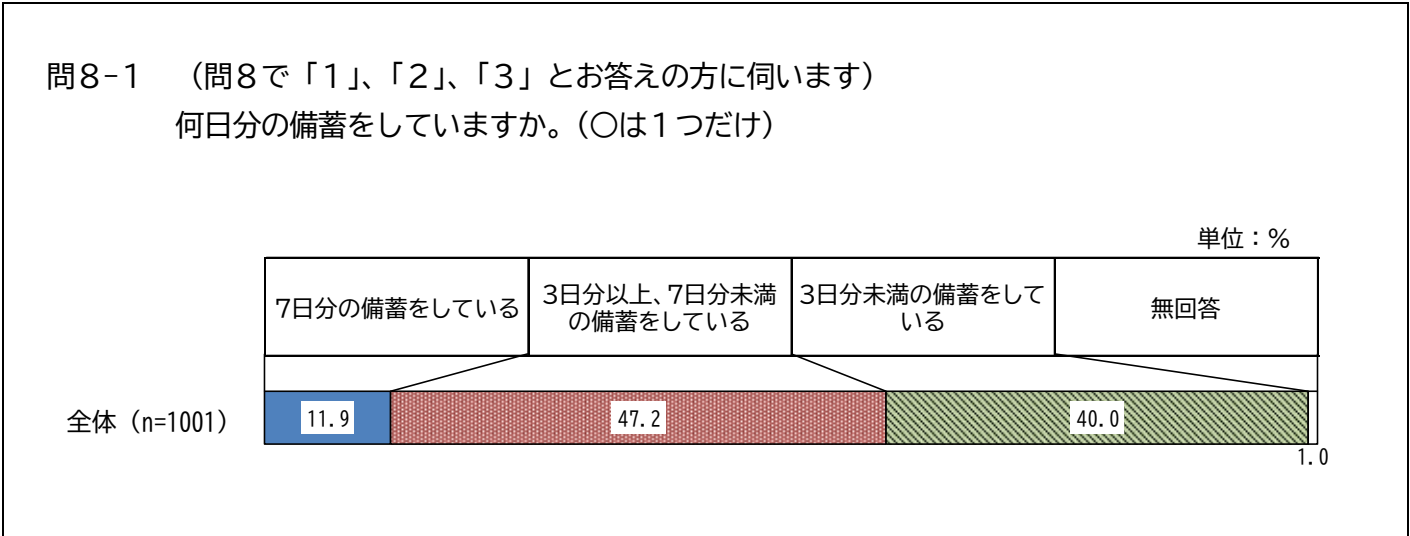
ライフステージ別でみると、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」は家族成熟期（65.7%）、高齢期（65.1%）が6割半ばと高くなっている。「備蓄はしていない」は一人暮らし（33.3%）が3割半ば近くと高くなっている。

災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 ライフステージ別



(1-1) 災害時に備えた備蓄の量

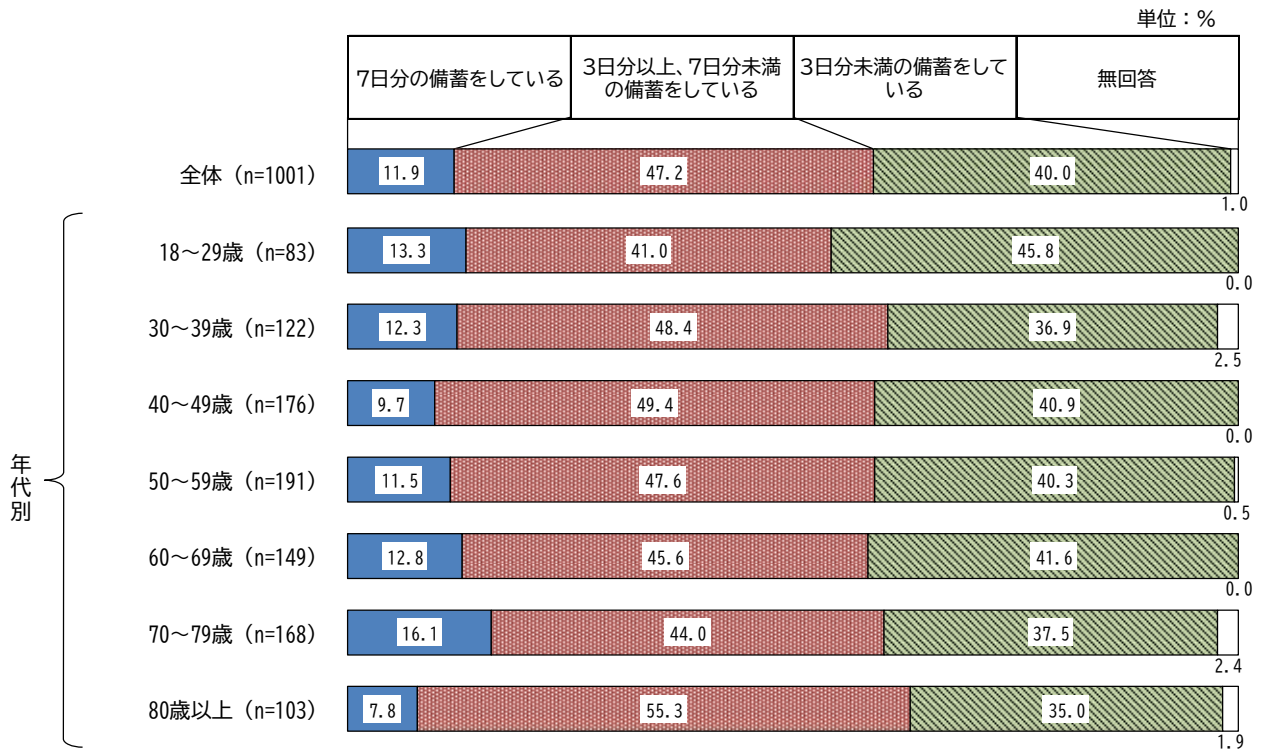
◇「3日以上、7日未満の備蓄をしている」が4割半ばを超える



災害時に備えた備蓄の量について聞いたところ、「3日以上、7日未満の備蓄をしている」(47.2%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで「3日未満の備蓄をしている」(40.0%)、「7日分の備蓄をしている」(11.9%)と続いている。

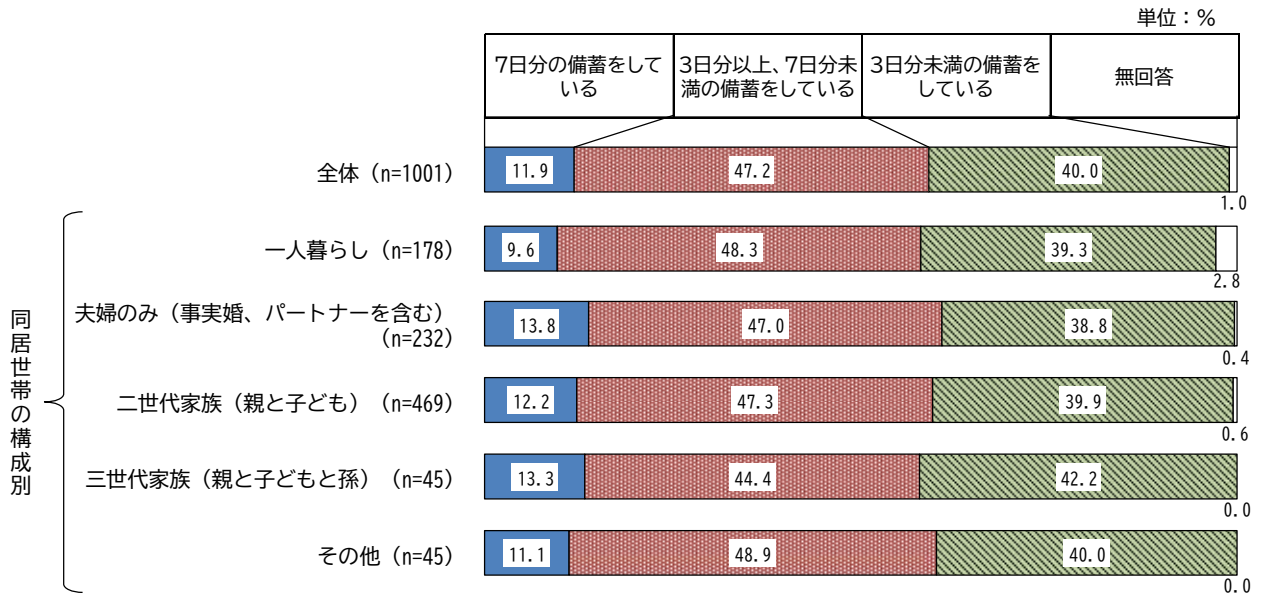
年代別でみると、「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」は80歳以上（55.3%）が5割半ばと最も高くなっている。「3日分未満の備蓄をしている」では、18～29歳（45.8%）が4割半ばと最も高くなっている。

災害時に備えた備蓄の量 年代別



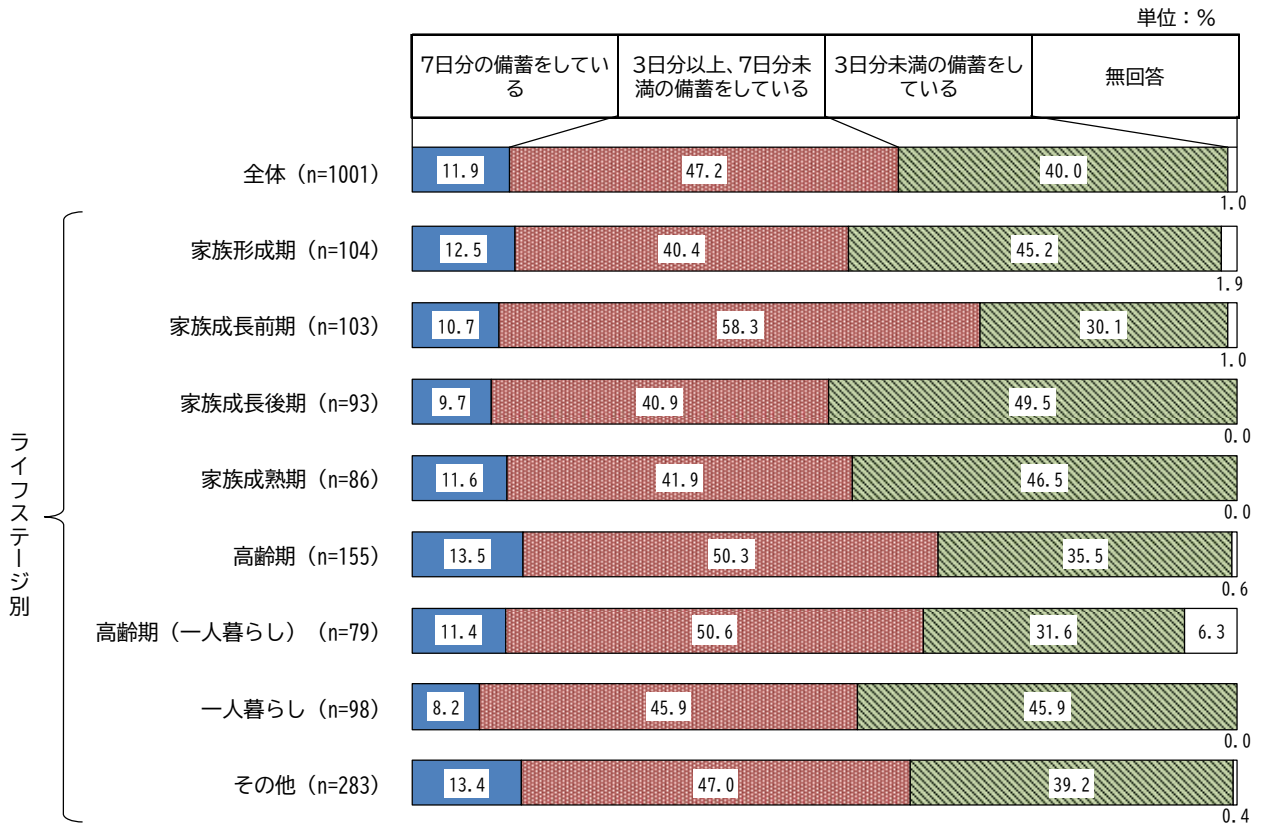
同居世帯の構成別でみると、「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」は一人暮らし（48.3%）が5割近くと高くなっている。

災害時に備えた備蓄の量 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、「3日以上、7日未満の備蓄をしている」は家族成長前期（58.3%）が6割近くと最も高くなっている。

災害時に備えた備蓄の量 ライフステージ別

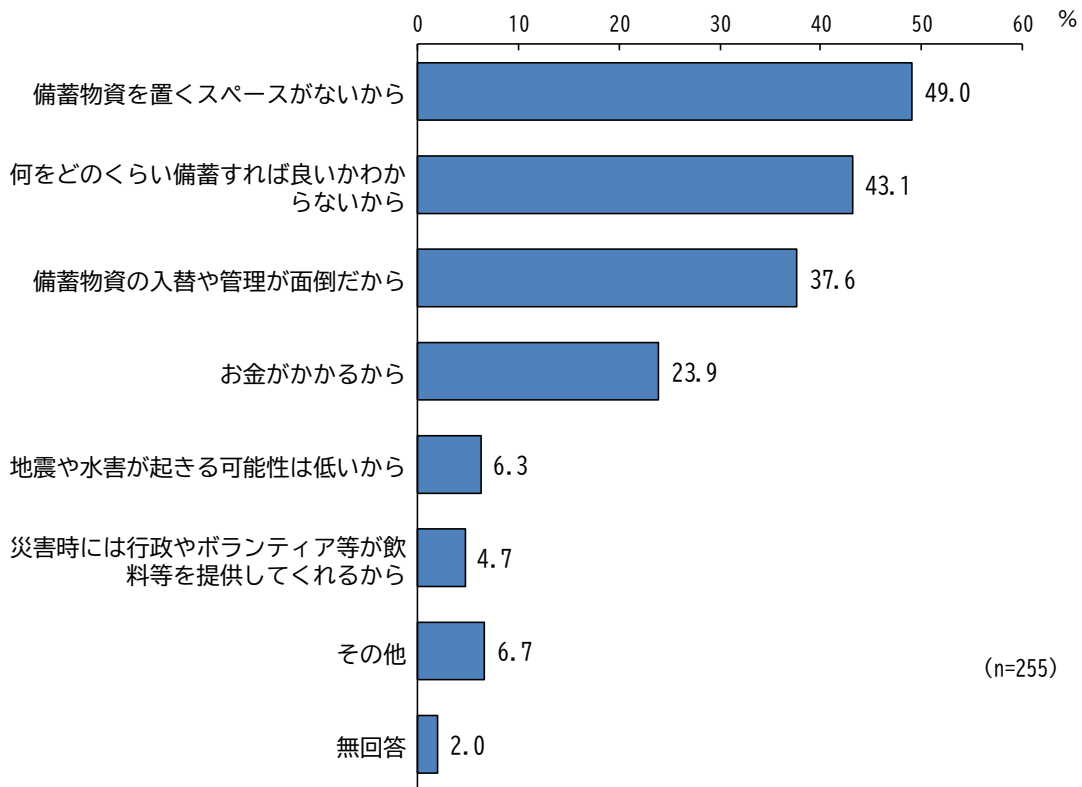


(1-2) 備蓄を行っていない理由

◇「備蓄物資を置くスペースがないから」が5割弱

問8-2 (問8で「4 備蓄していない」とお答えの方に伺います)

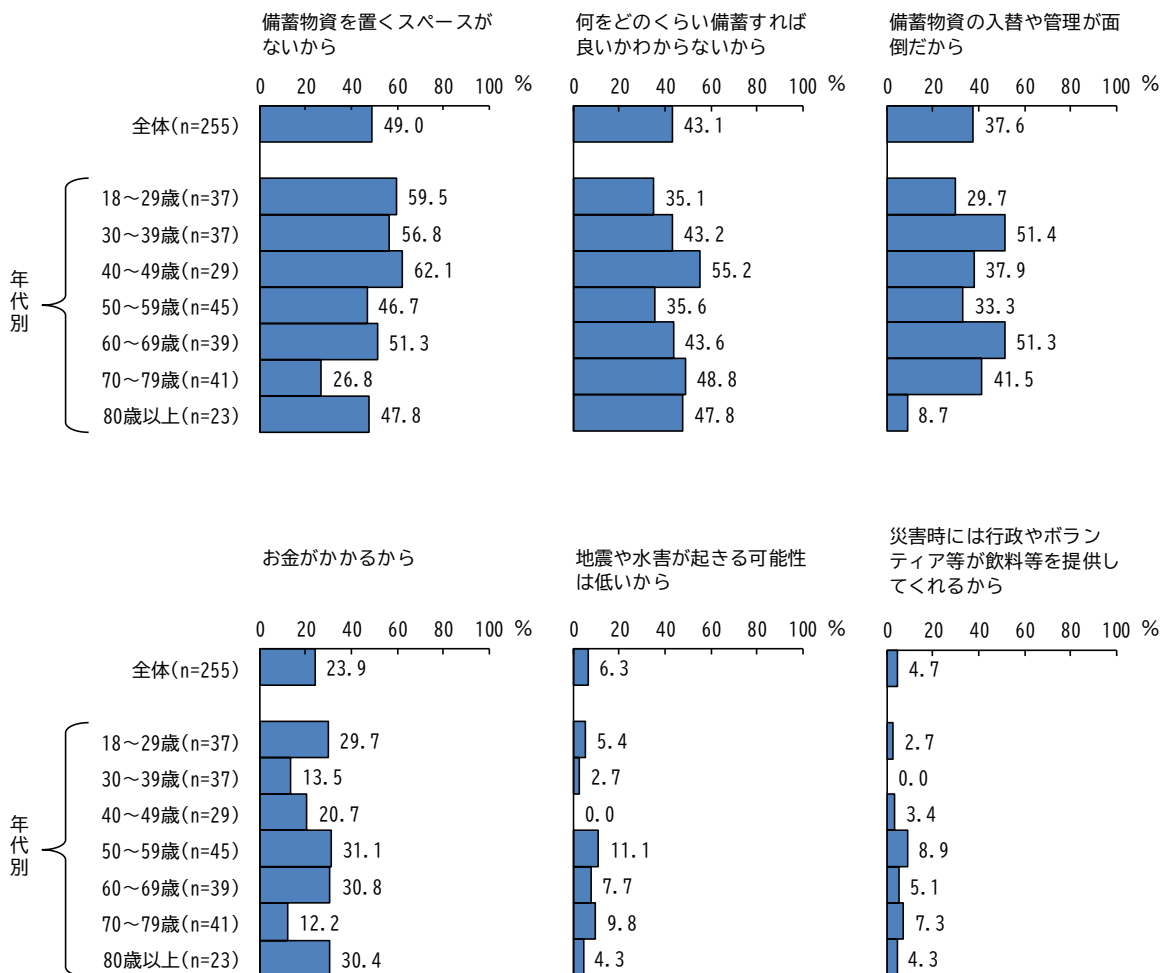
食料や飲料水の備蓄を行っていない理由について、次の中から当てはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)



備蓄を行っていない理由について聞いたところ、「備蓄物資を置くスペースがないから」(49.0%)が5割弱と最も高く、次いで「何をどのくらい備蓄すれば良いかわからないから」(43.1%)、「備蓄物資の入替や管理が面倒だから」(37.6%)が続いている。

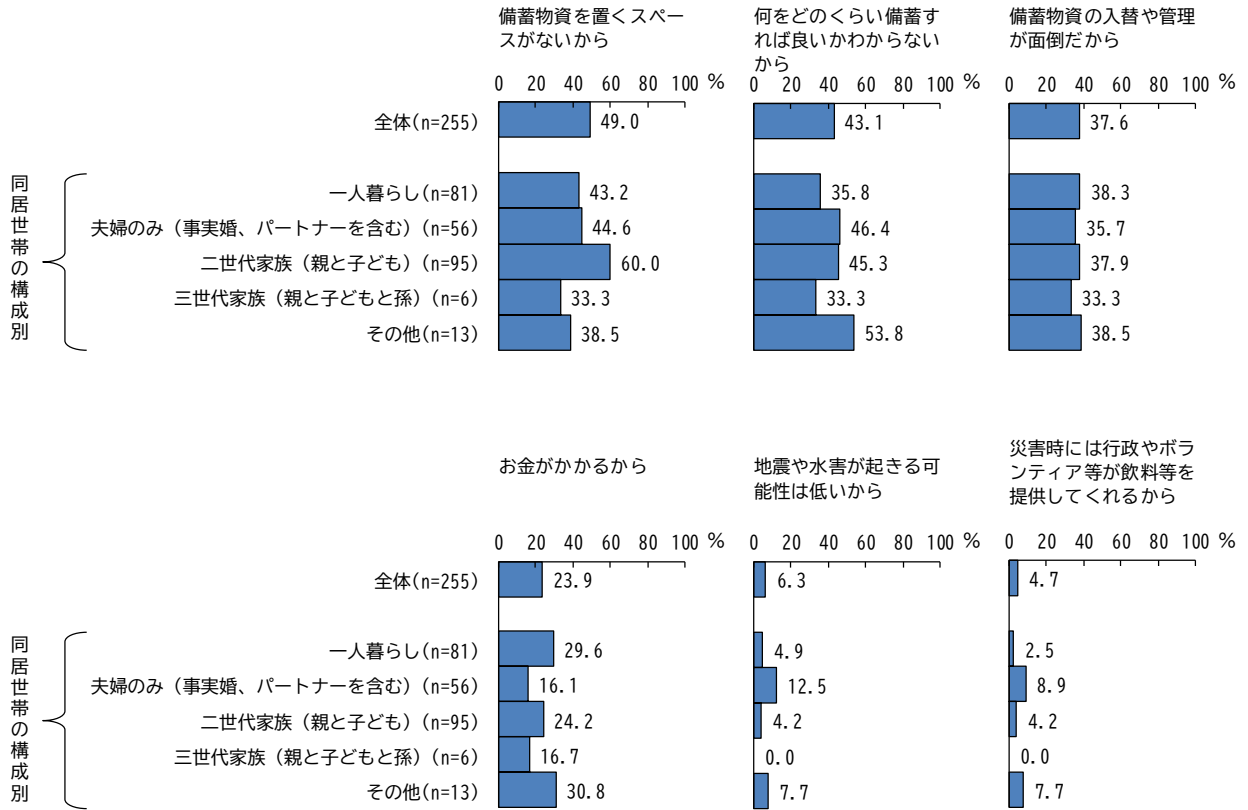
年代別でみると、「備蓄物資を置くスペースがないから」では、70～79歳（26.8%）が2割半ばを超えて最も低くなっている。

備蓄を行っていない理由 年代別



同居世帯の構成別でみると、「備蓄物資を置くスペースがないから」では、二世世代家族（親と子ども）（60.0%）が6割と最も高くなっている。

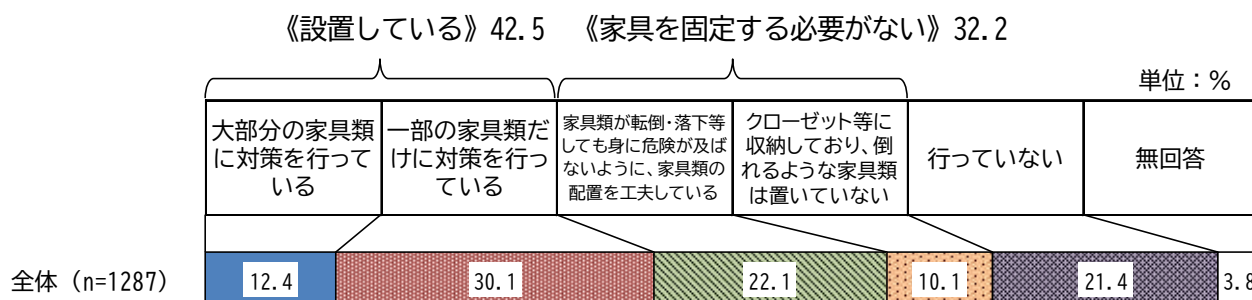
備蓄を行っていない理由 同居世帯の構成別



(2) 家具の転倒・落下防止

◇ 《設置している》が4割強、《家具を固定する必要がない》が3割強

問9 あなたの家では、地震に備え、家具類の転倒・落下・移動防止対策器具の設置を行っていますか。(○は1つだけ)

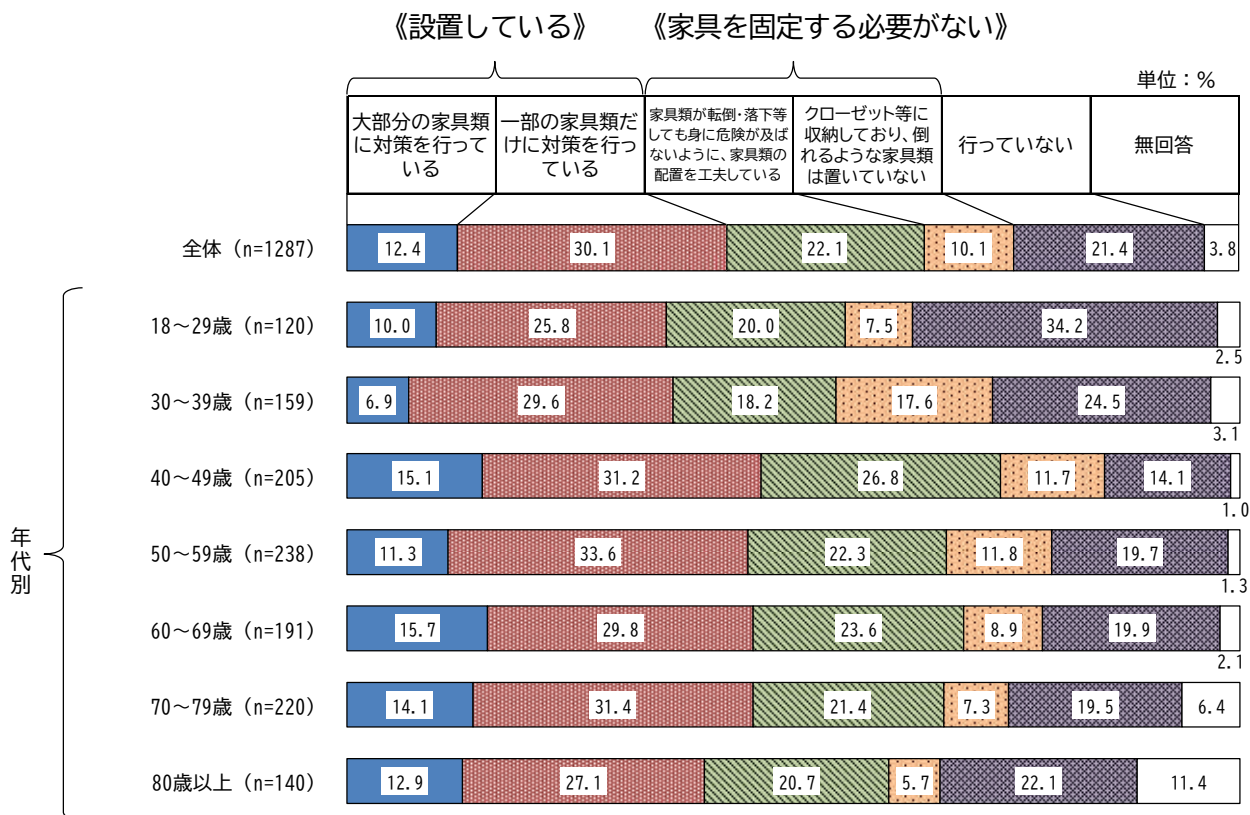


(注) 《設置している》 = 「大部分の家具類に対策を行っている」 + 「一部の家具類だけに対策を行っている」
 《家具を固定する必要がない》 = 「家具が転倒・落下しても身に危険が及ばないように、家具等の配置を工夫している」 + 「クローゼット等に収納しており、倒れるような家具類は置いていない」

家具の転倒・落下防止について聞いたところ、「一部の家具類だけに対策を行っている」(30.1%)が3割と最も高く、「大部分の家具類に対策を行っている」(12.4%)を合わせた《設置している》(42.5%)は4割強となっている。「家具類が転倒・落下等しても身に危険が及ばないように、家具類の配置を工夫している」(22.1%)、「クローゼット等に収納しており、倒れるような家具類は置いていない」(10.1%)を合わせた《家具を固定する必要がない》(32.2%)は3割強となっており、《設置している》と合わせると74.7%で7割半ば近くとなっている。一方で「行っていない」(21.4%)は2割強となっている。

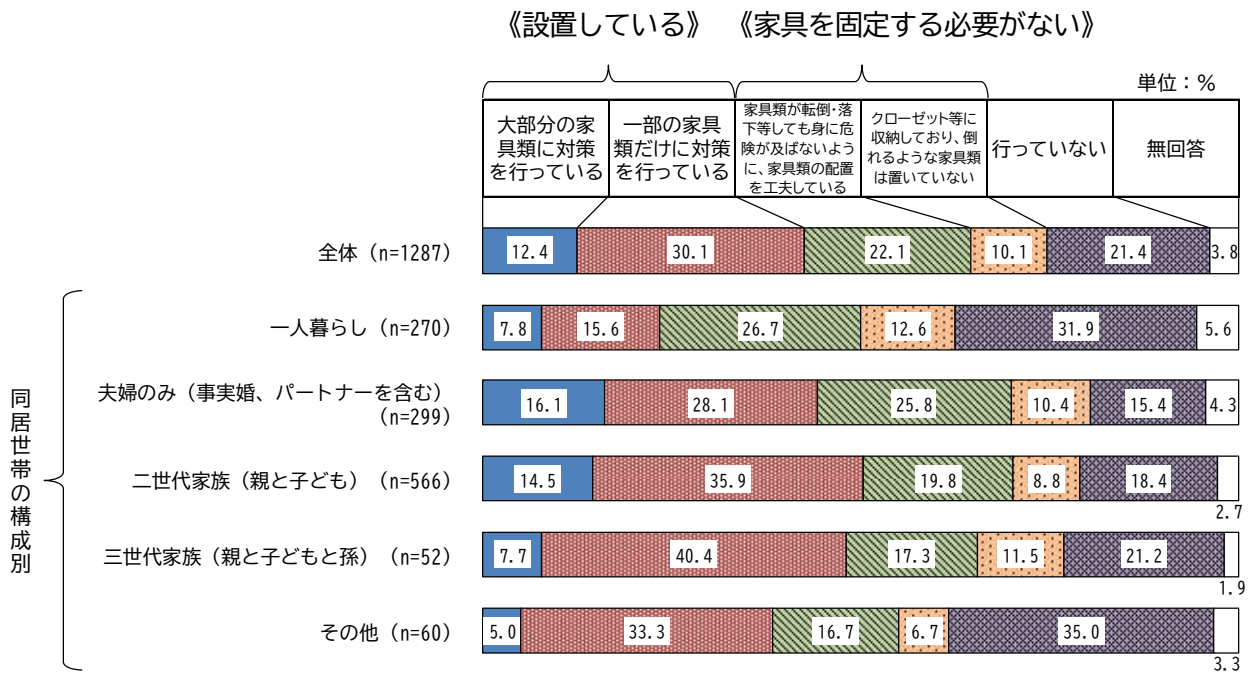
年代別でみると、《設置している》では、40～49歳（46.3%）が4割半ばを超えて最も高く、18～29歳（35.8%）が3割半ばと最も低い。「行っていない」は18～29歳（34.2%）が3割半ば近くと高くなっている。

家具の転倒・落下防止 年代別



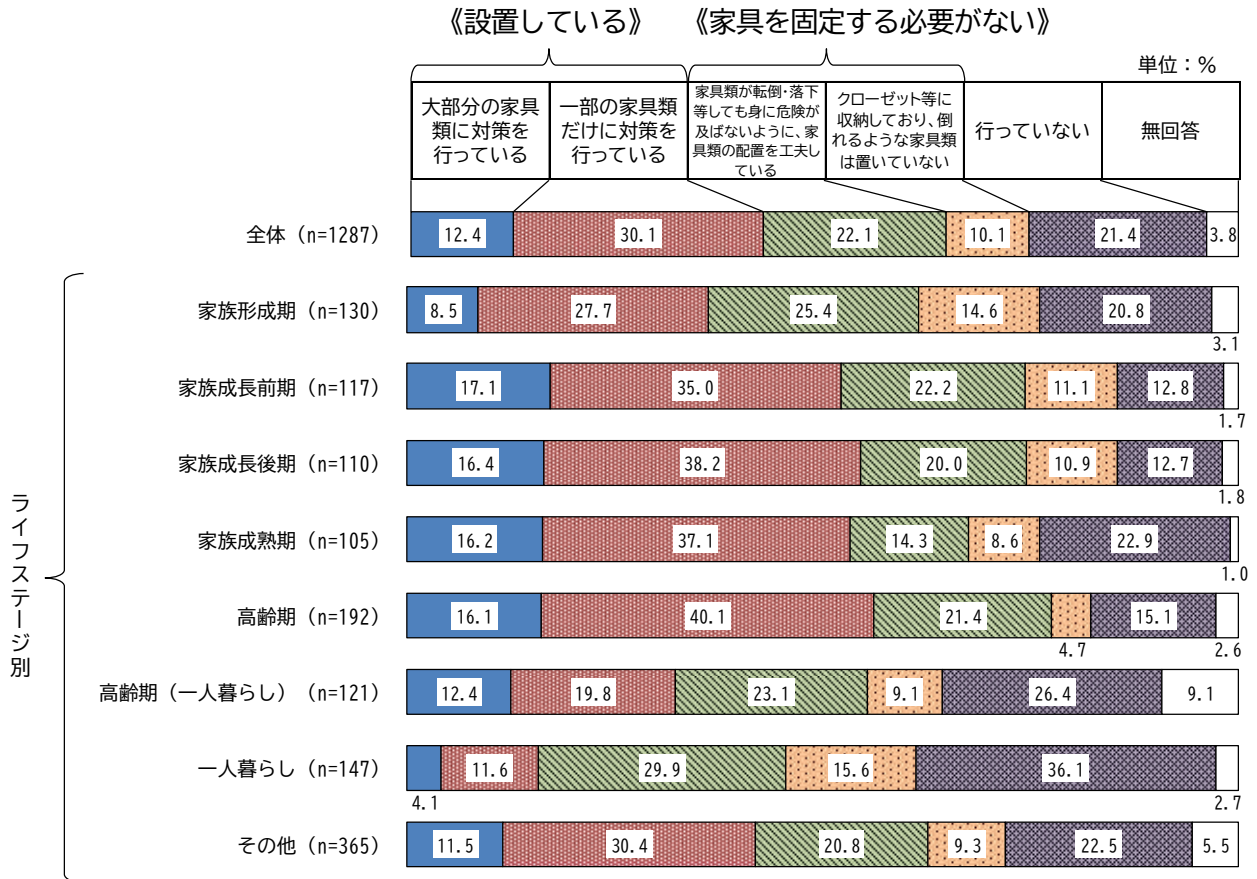
同居世帯の構成別でみると、「設置している」では、二世世代家族（親と子ども）（50.4%）が5割と最も高くなっている。「行っていない」では、一人暮らし（31.9%）が3割強と高くなっている。

家具の転倒・落下防止 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、《設置している》では、高齢期（56.2%）が5割半ばを超えて最も高く、高齢期（一人暮らし）（32.2%）と一人暮らし（15.7%）の《一人暮らし》が他に比べて低くなっている。

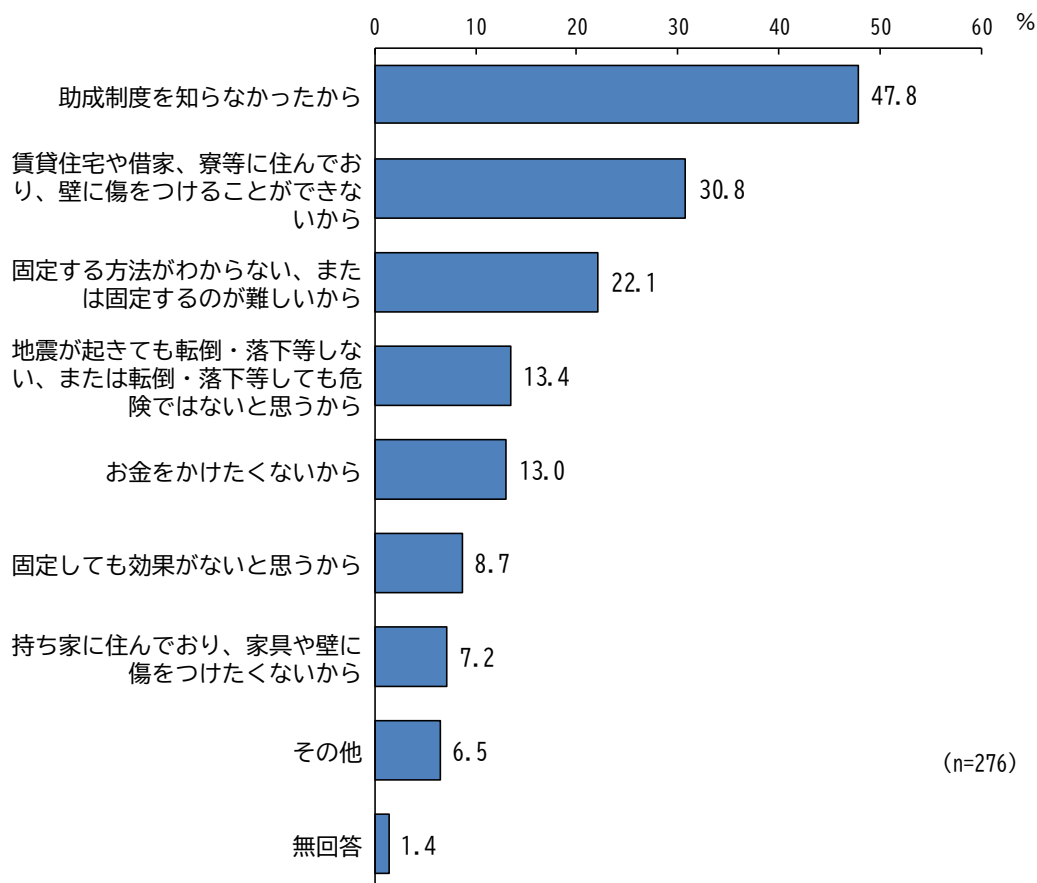
家具の転倒・落下防止 ライフステージ別



(2-1) 家具の転倒・落下防止器具の未設置理由

◇「助成制度を知らなかったから」が4割半ばを超える

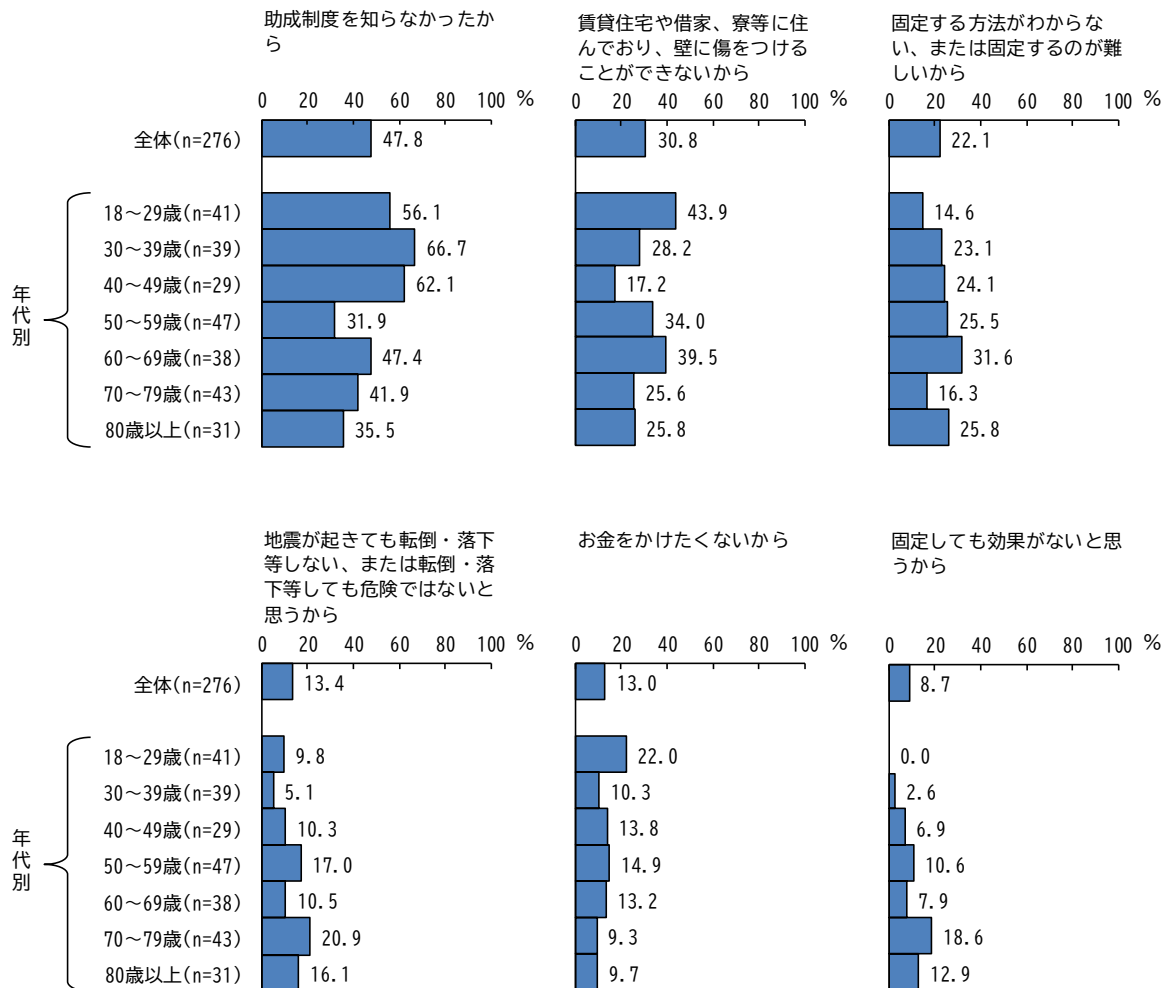
問9-1 (問9で「5 行っていない」とお答えの方に伺います) 区で家具類の転倒・落下・移動防止対策器具の設置に5千円～2万円(条件有)の助成金が出る制度がありますが、設置を行っていない理由を教えてください。(〇はいくつでも)



家具の転倒・落下防止器具の未設置理由について聞いたところ、「助成制度を知らなかったから」(47.8%)が4割半ばを超えて最も高く、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」(30.8%)が3割でこれに続いている。

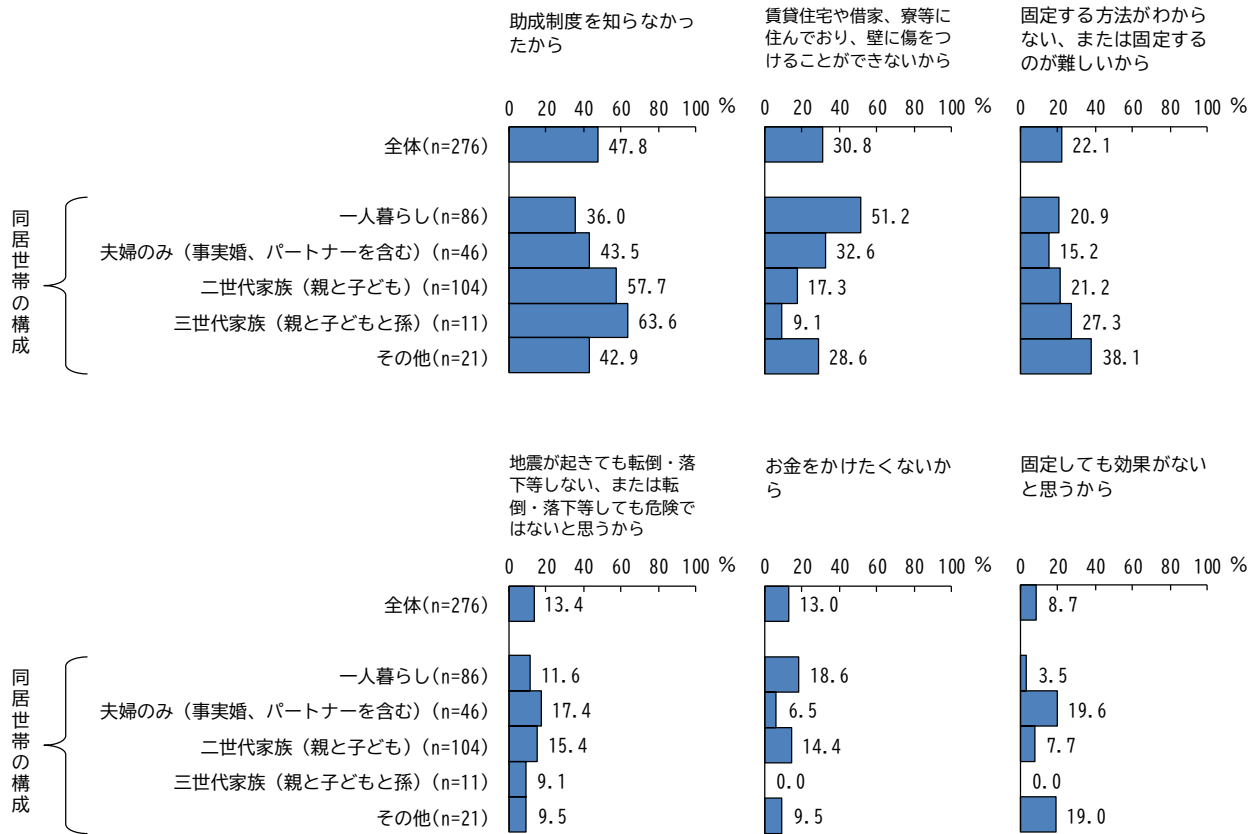
上位6項目を年代別で見ると、「助成制度を知らなかったから」では、30～39歳（66.7%）が6割半ばを超え最も高くなっている。「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」では、18～29歳（43.9%）が4割半ば近くと最も高くなっている。

家具の転倒・落下防止器具の未設置理由（上位6項目） 年代別



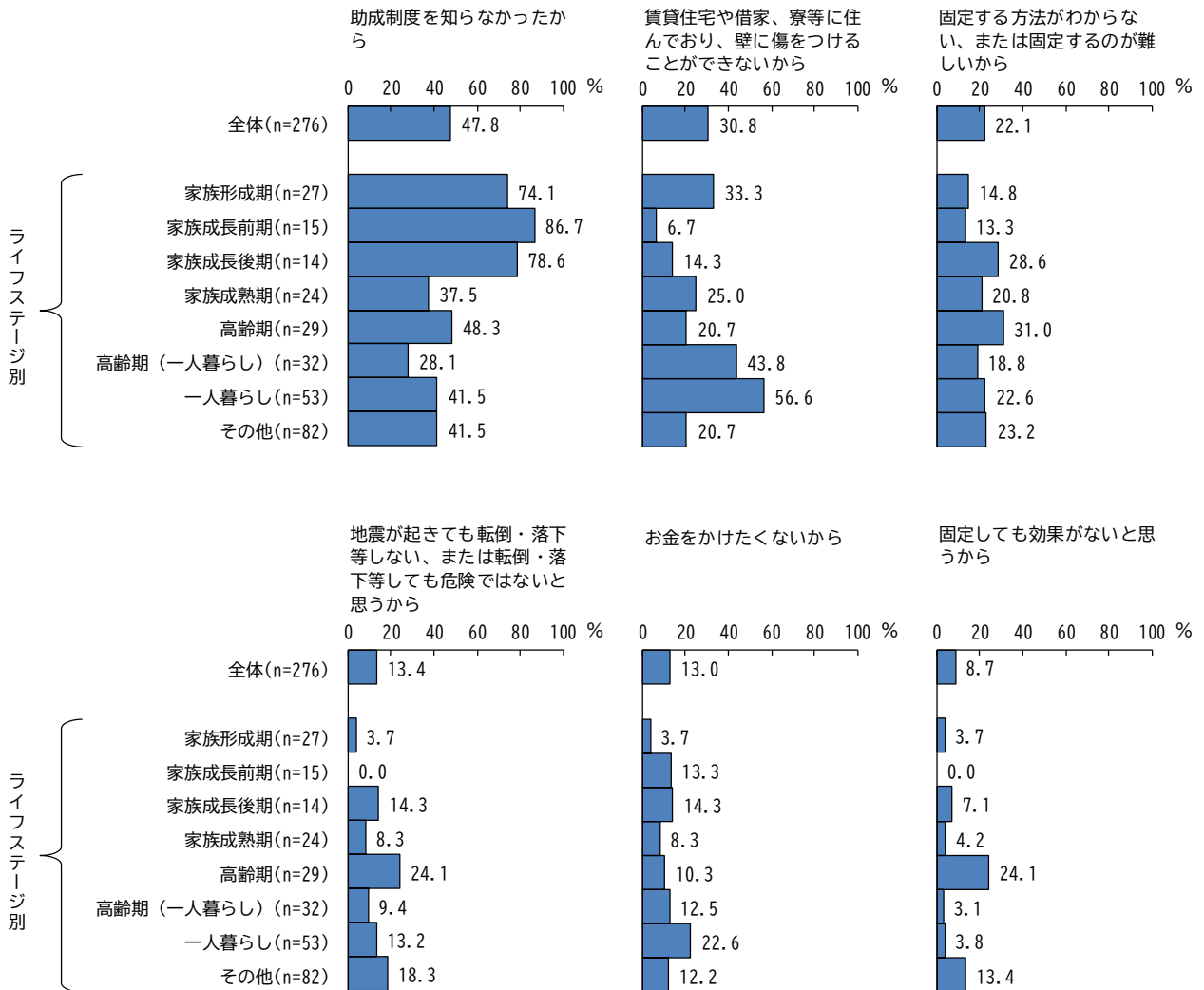
上位6項目を同居世帯の構成別でみると、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」では、一人暮らし（51.2%）が5割強と最も高くなっている。

家具の転倒・落下防止器具の未設置理由（上位6項目） 同居世帯の構成別



上位6項目をライフステージ別でみると、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」では、一人暮らし（56.6%）が5割半ばを超え最も高くなっている。

家具の転倒・落下防止器具の未設置理由（上位6項目） ライフステージ別

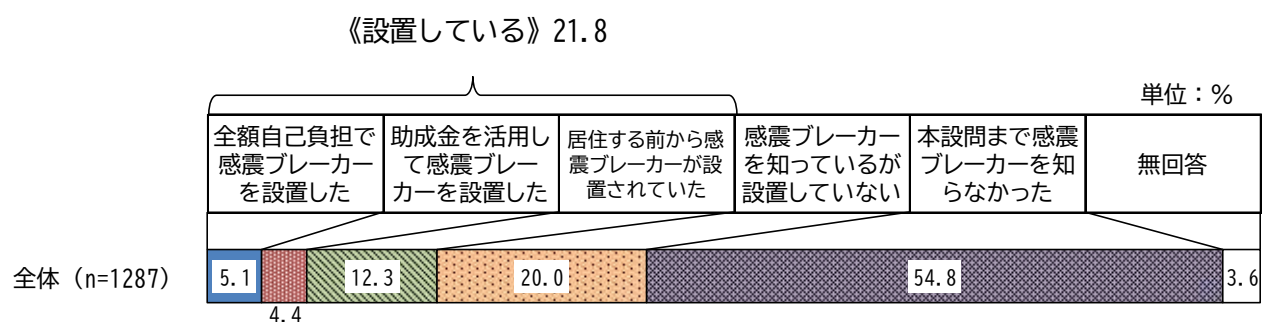


(3) 感震ブレーカーの設置状況

◇ 《設置している》は2割強

問 10 過去の大規模地震時に発生した火災の原因の約6割が、地震による停電から電気が復旧した時に発生する通電火災によるものでした。通電火災を防ぐためには、強い揺れを感知した時に電気を自動的に止める「感震ブレーカー」という装置を設置することが有効です。「感震ブレーカー」の設置状況についてお答えください。

(○は1つだけ)



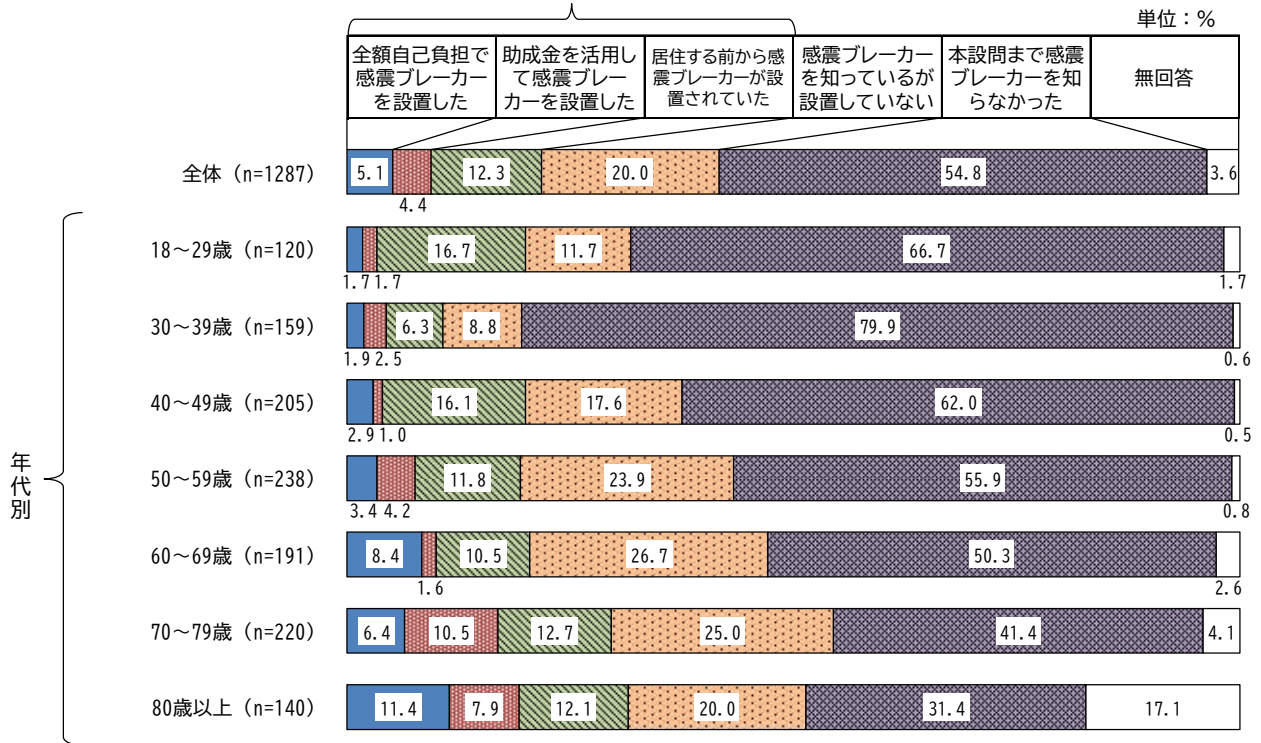
(注) 《設置している》 = 「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」 + 「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」 + 「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」

感震ブレーカーの設置状況について聞いたところ、「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」(5.1%)と「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」(4.4%)と「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」(12.3%)を合わせた《設置している》(21.8%)は2割強となったが、「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」(54.8%)が5割半ば近くとなっている。

年代別でみると、《設置している》では、80歳以上（31.4%）が3割強と最も高くなっている。
 「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」では30～39歳（79.9%）が8割弱と最も高くなっており、年齢層が低くなるほどおおむね割合が高くなっている。

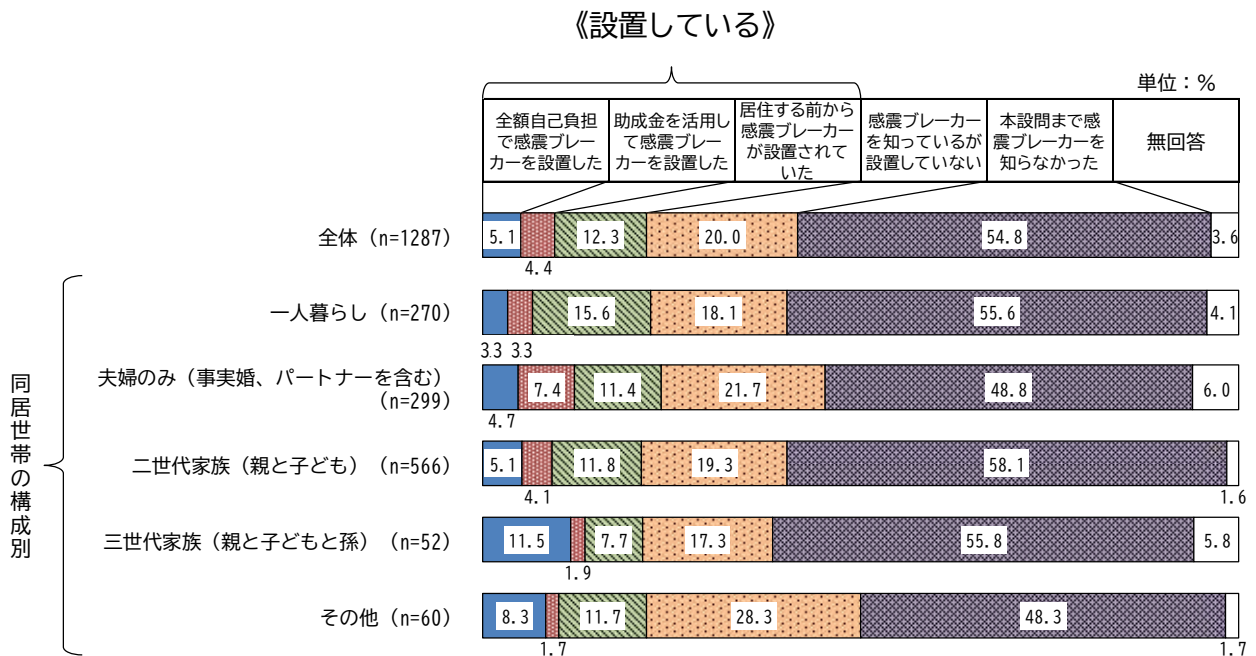
感震ブレーカーの設置状況 年代別

《設置している》



同居世帯の構成別でみると、《設置している》では、夫婦のみ(事実婚、パートナーを含む) (23.5%) が2割半ば近くと最も高くなっている。「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」では二世世代家族(親と子ども) (58.1%) が6割近くと最も高くなっている。

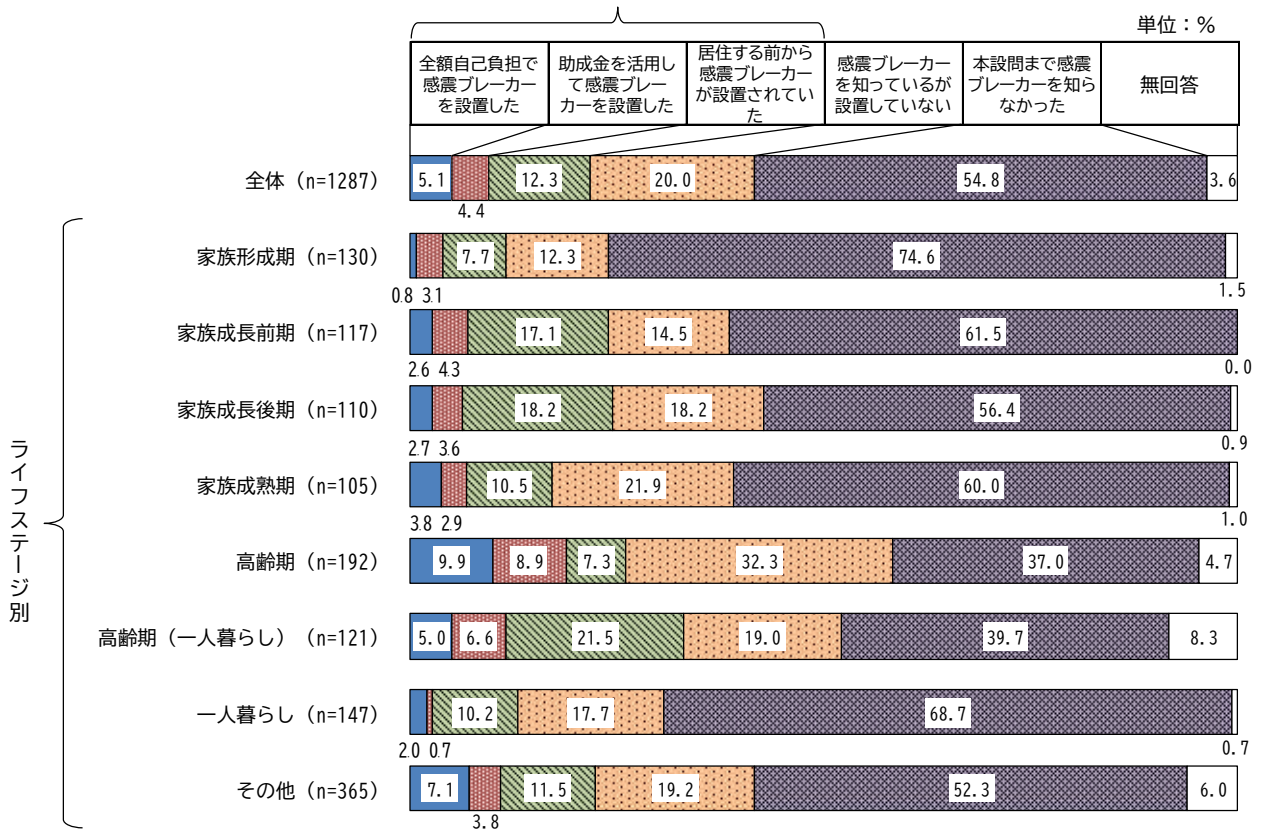
感震ブレーカーの設置状況 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、《設置している》では、高齢期（一人暮らし）（33.1%）が3割半ば近くと最も高くなっている。「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」では家族形成期（74.6%）が7割半ば近くと最も高くなっている。

感震ブレーカーの設置状況 ライフステージ別

《設置している》

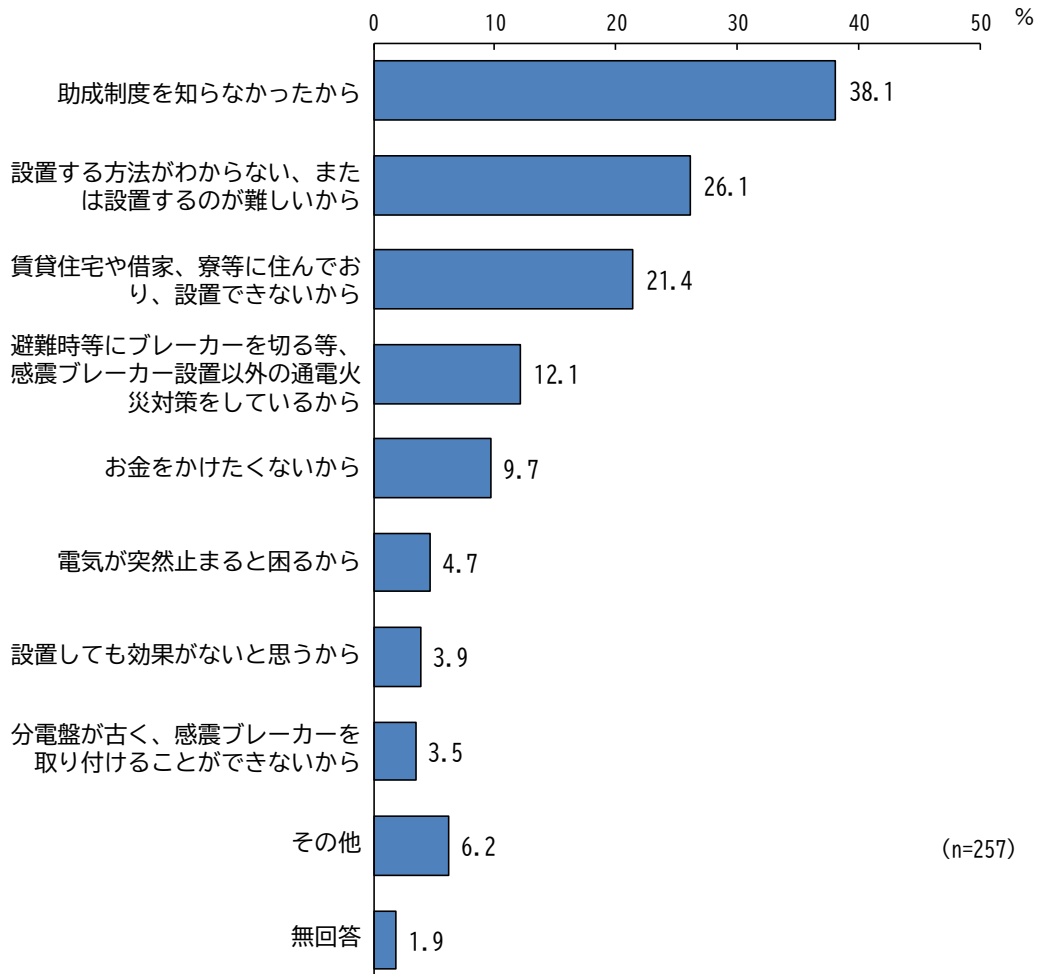


(3-1) 感震ブレーカーの未設置理由

◇「助成制度を知らなかったから」が4割近く

問10-1 (問10で「4 感震ブレーカーを知っているが設置していない」とお答えの方に伺います)

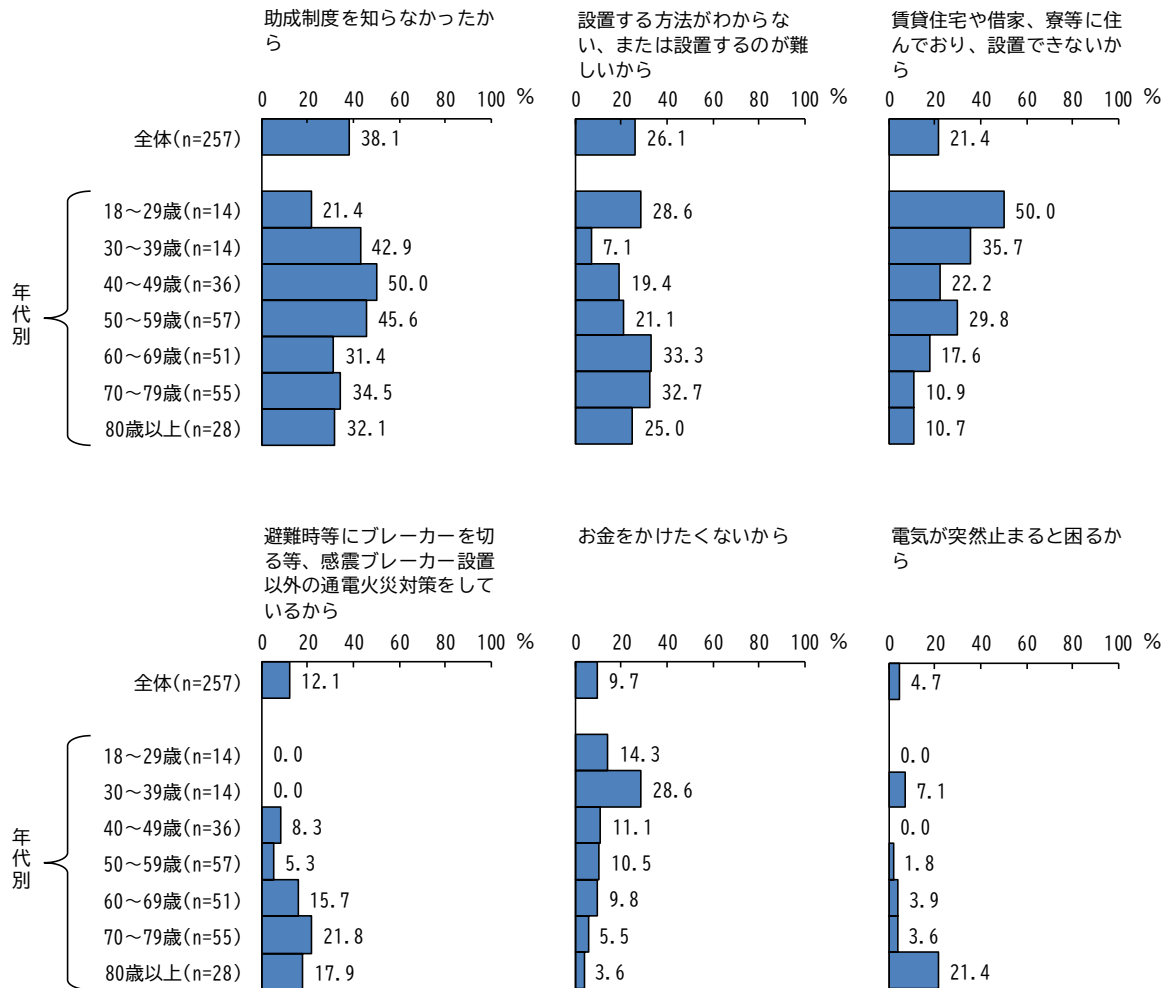
荒川区では感震ブレーカー等の設置について、5千円～10万円(条件有)の助成金が出る制度がありますが、「感震ブレーカー」を設置していない理由を次の中からお選びください。(〇はいくつでも)



感震ブレーカーの未設置理由について聞いたところ、「助成制度を知らなかったから」(38.1%)が4割近くと最も高く、「設置する方法がわからない、または設置するのが難しいから」(26.1%)、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、設置できないから」(21.4%)が続いている。

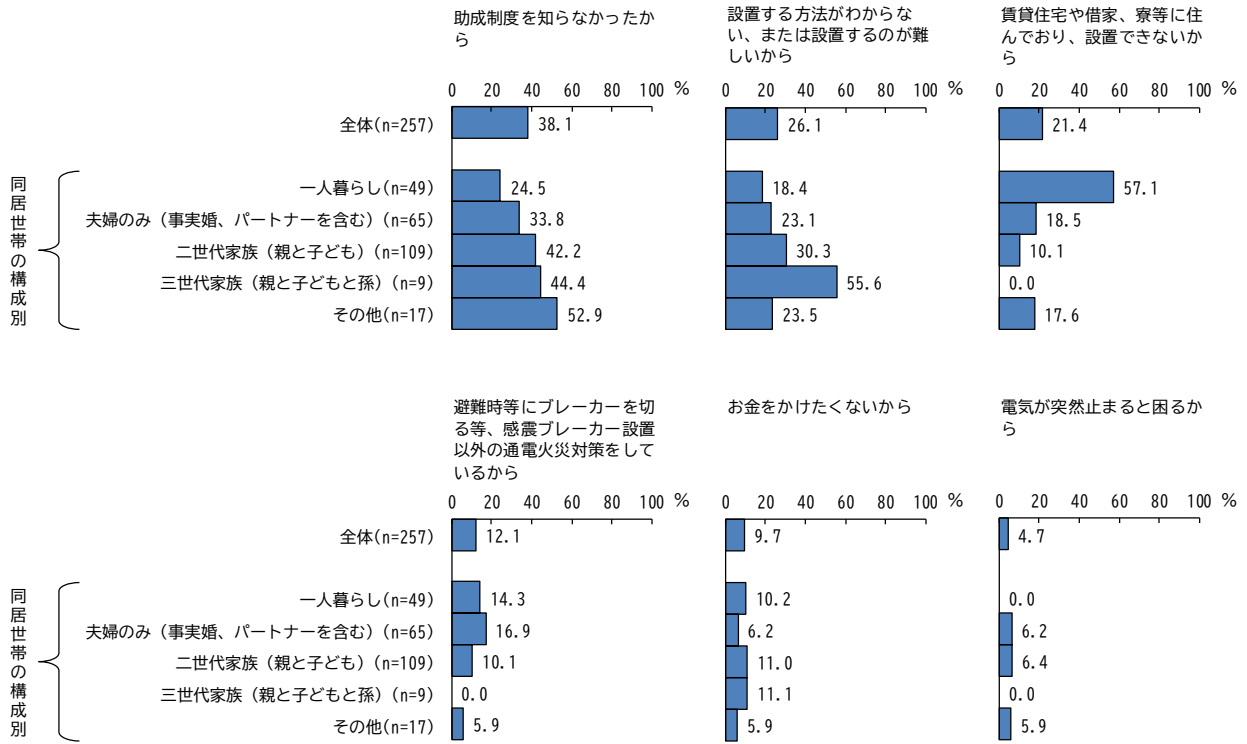
上位6項目を年代別で見ると、「助成制度を知らなかったから」では、40～49歳（50.0%）が5割と最も高くなっている。

感震ブレーカーの未設置理由（上位6項目） 年代別



上位6項目を同居世帯の構成別でみると、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、設置できないから」では、一人暮らし（57.1%）が5割半ば超えと最も高くなっている。

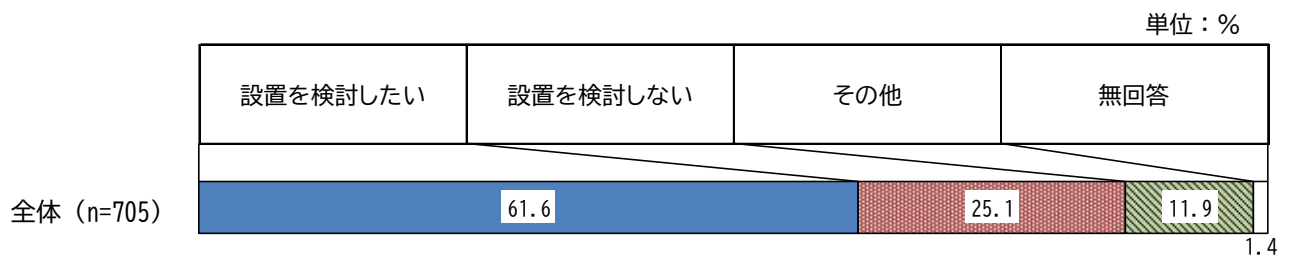
感震ブレーカーの未設置理由（上位6項目） 同居世帯の構成別



(3-2) 感震ブレーカーの設置意向

◇「設置を検討したい」が6割強

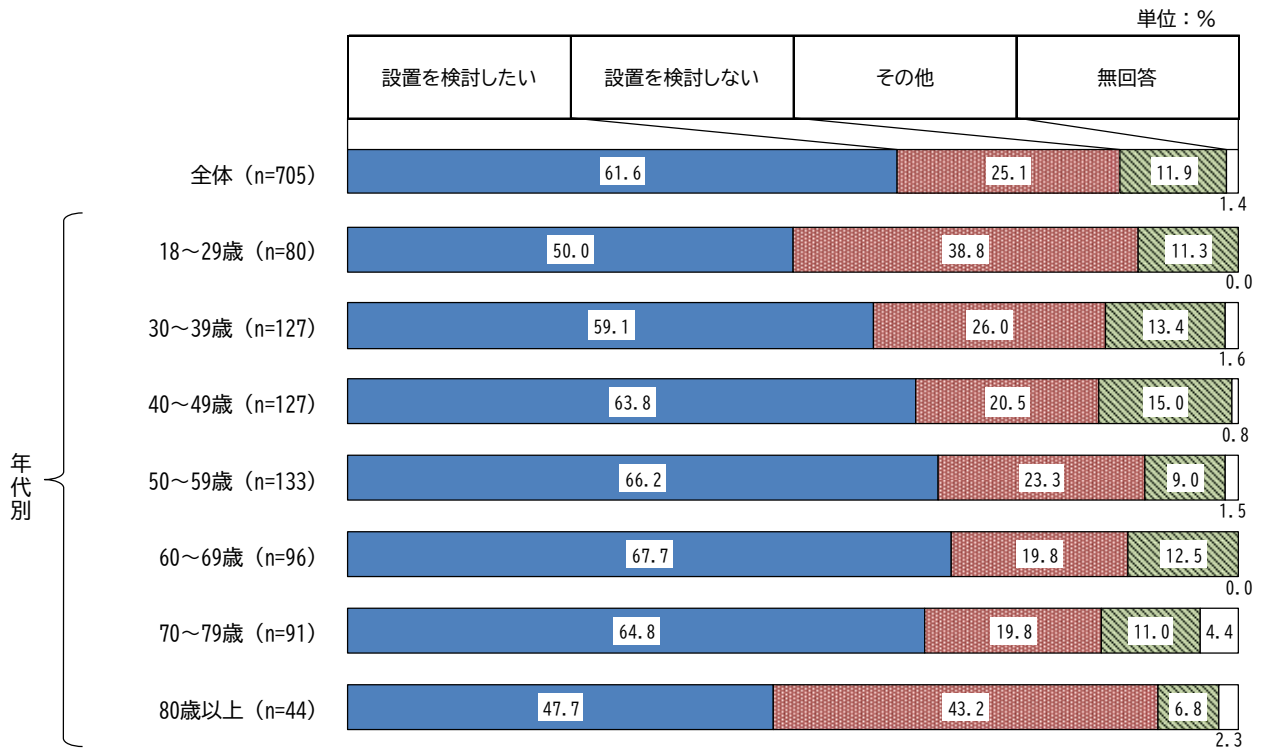
問10-2 (問10で「5 本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」とお答えの方に伺います)
感震ブレーカーにはいくつかの種類があります。電気工事が必要な分電盤タイプ(標準的なもので5~8万円ほど)やコンセントタイプ(標準的なもので5千円~2万円ほど)、電気工事が不要で簡単に取り付けられるタイプなど、仕組みや価格は多様です。
荒川区では感震ブレーカー等の設置について、5千円~10万円(条件有)の助成金が出る制度がありますが、上記を踏まえ、設置を検討したいと思いますか。
(○は1つだけ)



感震ブレーカーの設置意向について聞いたところ、「設置を検討したい」(61.6%)が6割強と高く、「設置を検討しない」(25.1%)は2割半ばとなっている。

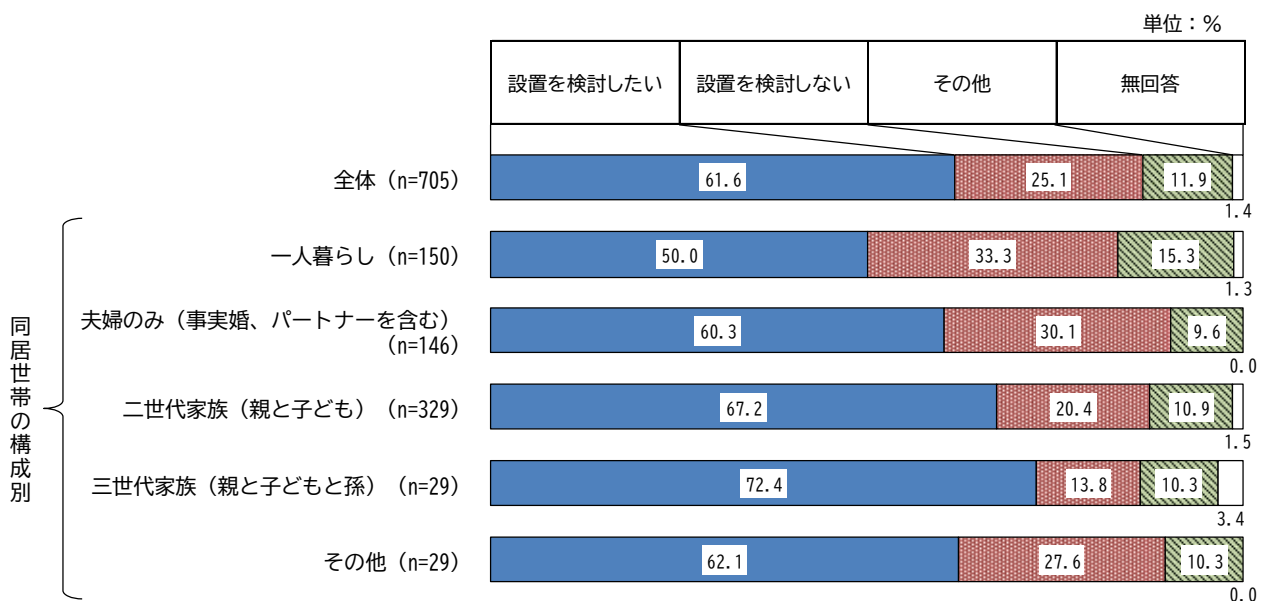
年代別でみると、「設置を検討したい」では、40～79歳で6割を超えて高く、「設置を検討しない」では、18～29歳（38.8%）と80歳以上（43.2%）が高くなっている。

感震ブレーカーの設置意向 年代別



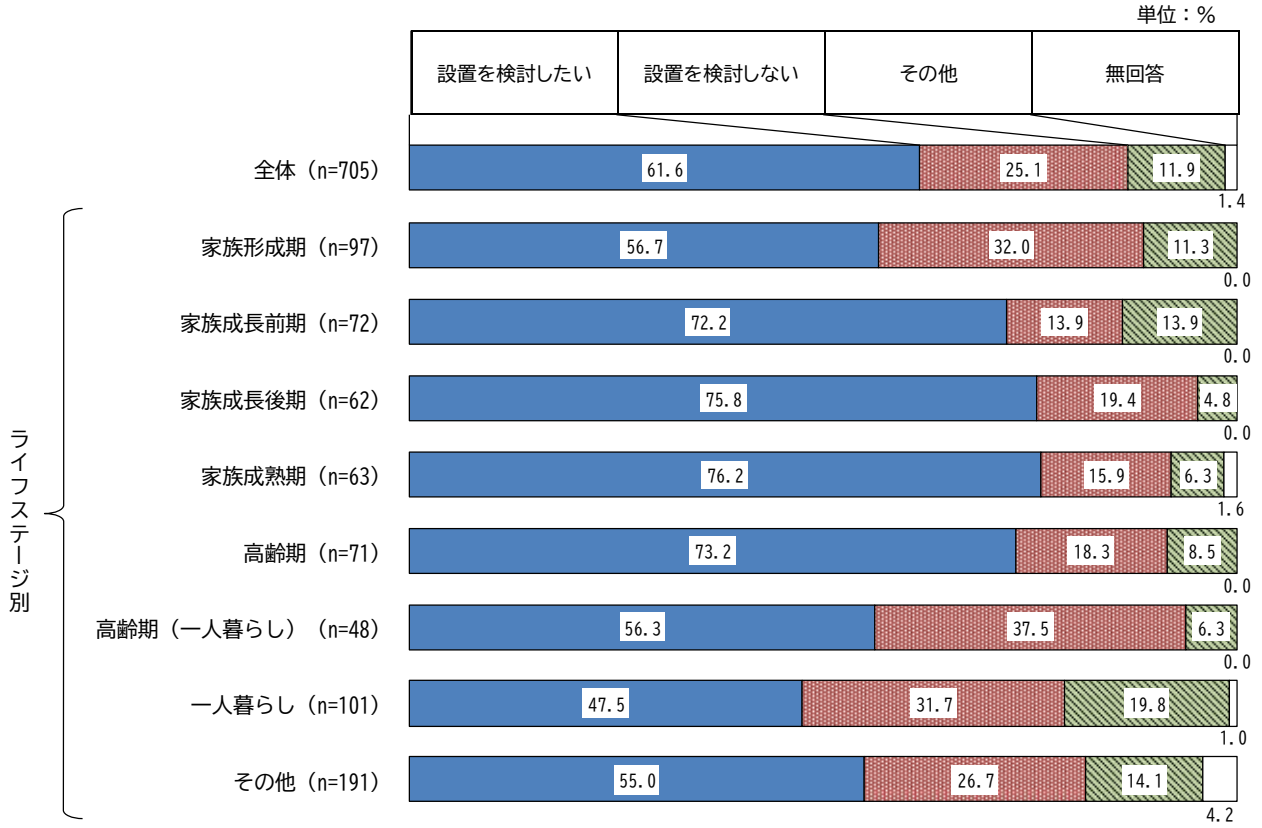
同居世帯の構成別でみると、「設置を検討しない」では、一人暮らし（33.3%）が3割半ば近くと高くなっている。

感震ブレーカーの設置意向 同居世帯の構成別



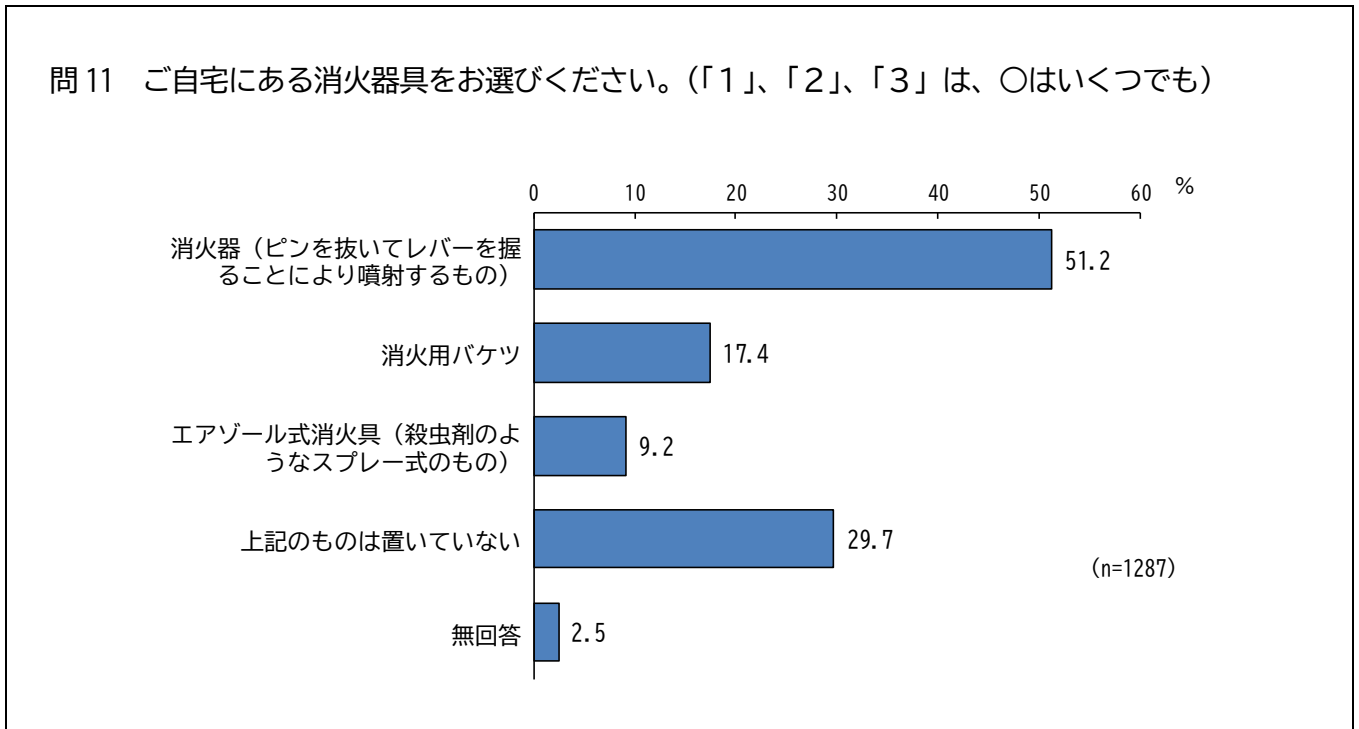
ライフステージ別でみると、「設置を検討したい」では、家族成熟期（76.2%）と家族成長後期（75.8%）が7割半ば以上と高くなっている。「設置を検討しない」では、高齢期（一人暮らし）（37.5%）が3割半ばを超えて高くなっている。

感震ブレーカーの設置意向 ライフステージ別



(4) 消火器具の保有状況

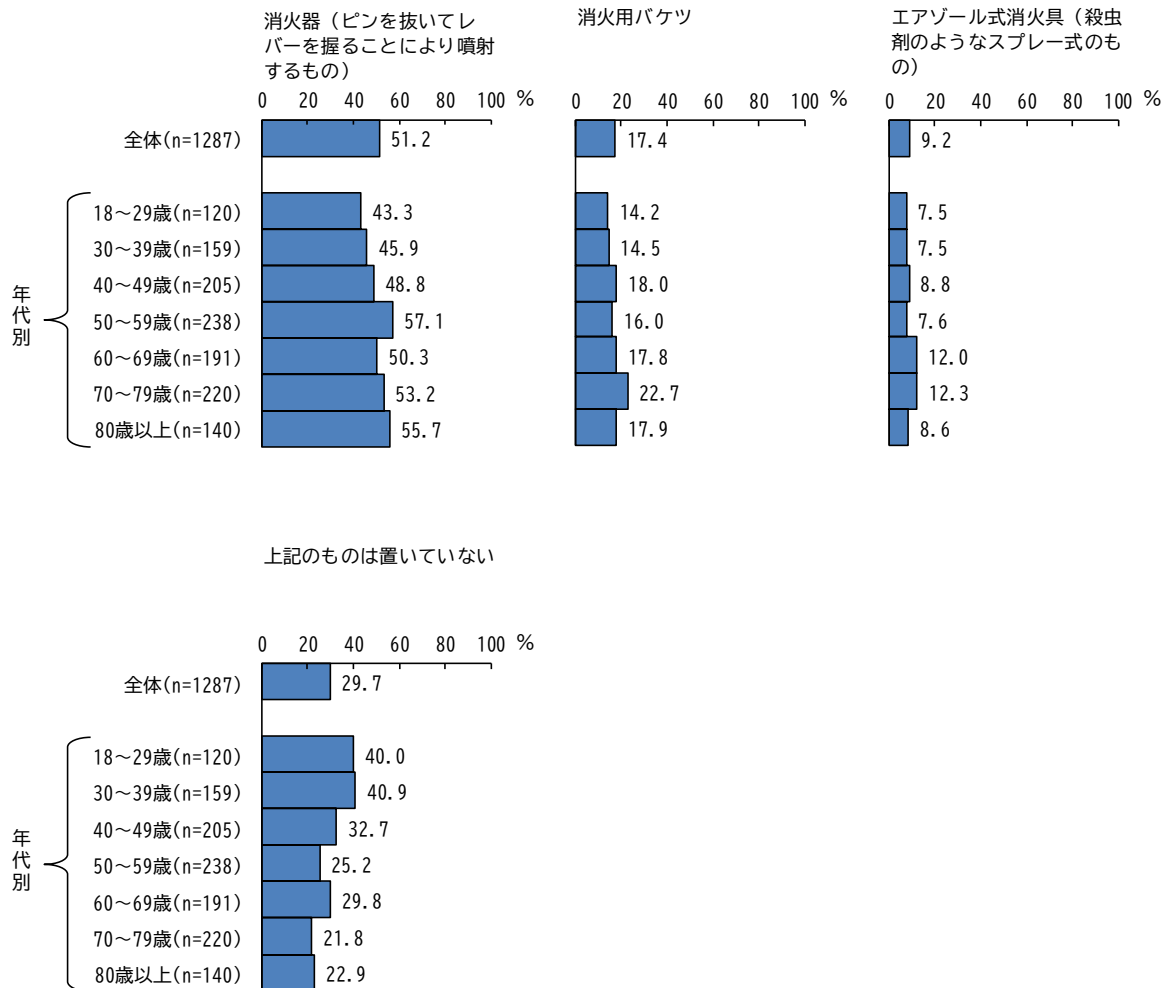
◇「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」が5割強



消火器具の保有状況について聞いたところ、「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」（51.2%）が5割強と最も高く、「消火用バケツ」（17.4%）、「エアゾール式消火具（殺虫剤のようなスプレー式のもの）」（9.2%）と続いている。また、「上記のものは置いていない」（29.7%）は3割弱となっている。

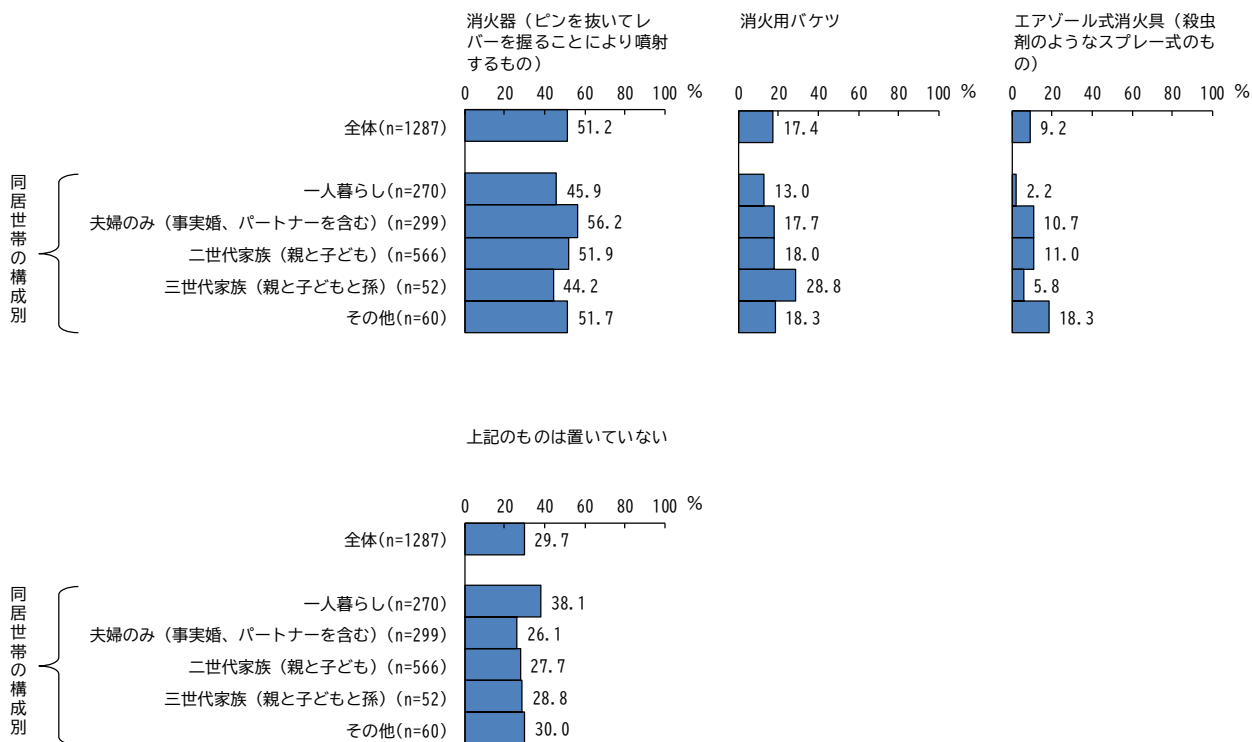
年代別でみると、「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」では、50～59歳（57.1%）が5割半ばを超えて最も高くなっている。「上記のものは置いていない」では、18～39歳で4割と高くなっている。

消火器具の保有状況 年代別



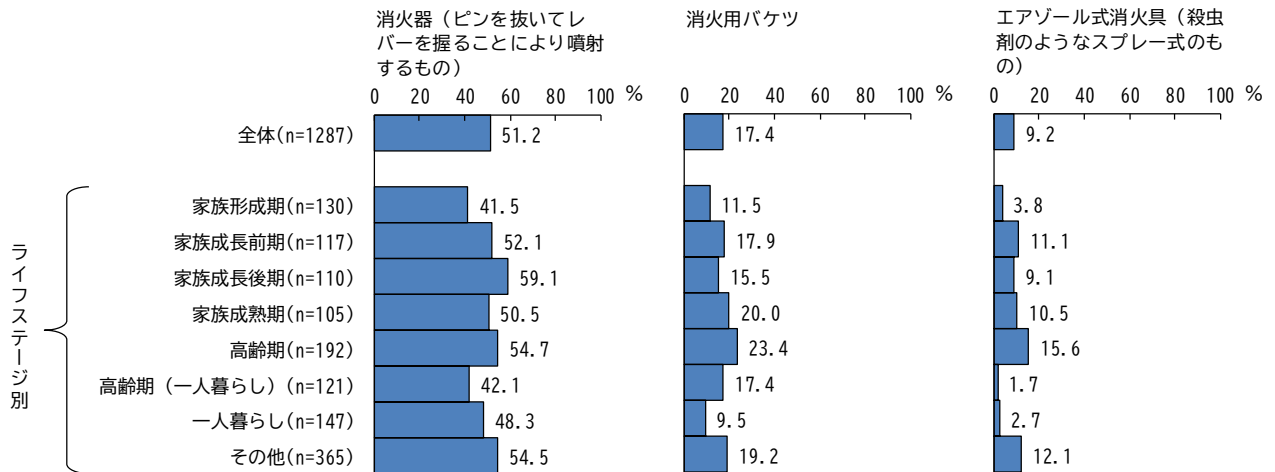
同居世帯の構成別でみると、「消火用バケツ」では、三世代家族（親と子どもと孫）（28.8%）が3割近くと高くなっている。「上記のものは置いていない」では、一人暮らし（38.1%）で4割近くと高くなっている。

消火器具の保有状況 同居世帯の構成別

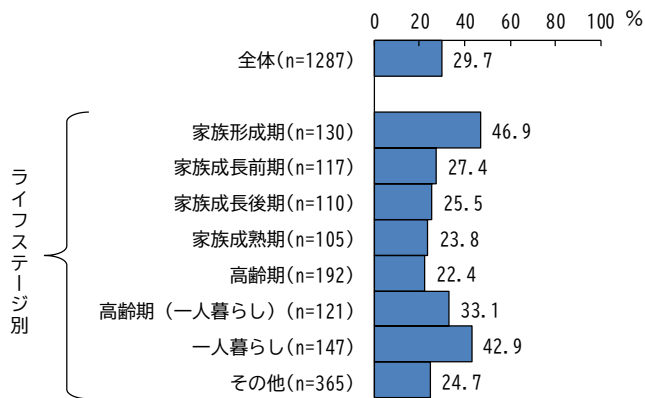


ライフステージ別でみると、「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」では、家族成長後期（59.1%）が6割弱と最も高く、高齢期（一人暮らし）（42.1%）と家族形成期（41.5%）が4割強と低くなっている。「上記のものは置いていない」では、家族形成期（46.9%）と一人暮らし（42.9%）が4割以上と高くなっている。

消火器具の保有状況 ライフステージ別



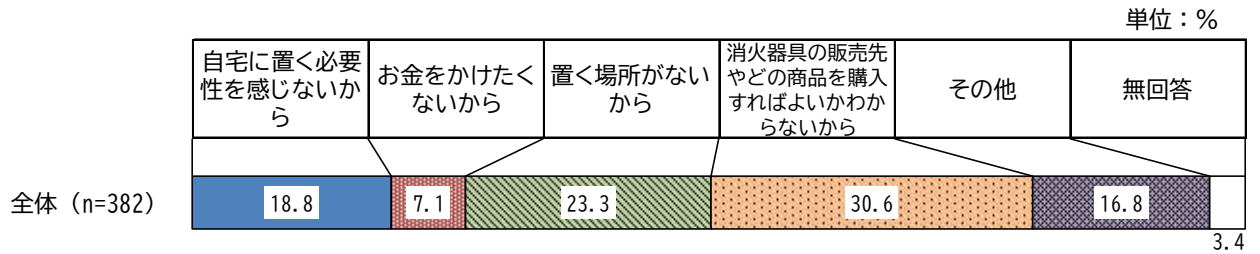
上記のものは置いていない



(4-1) 消火器具の未保有理由

◇「消火器具の販売先やどの商品を購入すればよいかわからないから」が3割

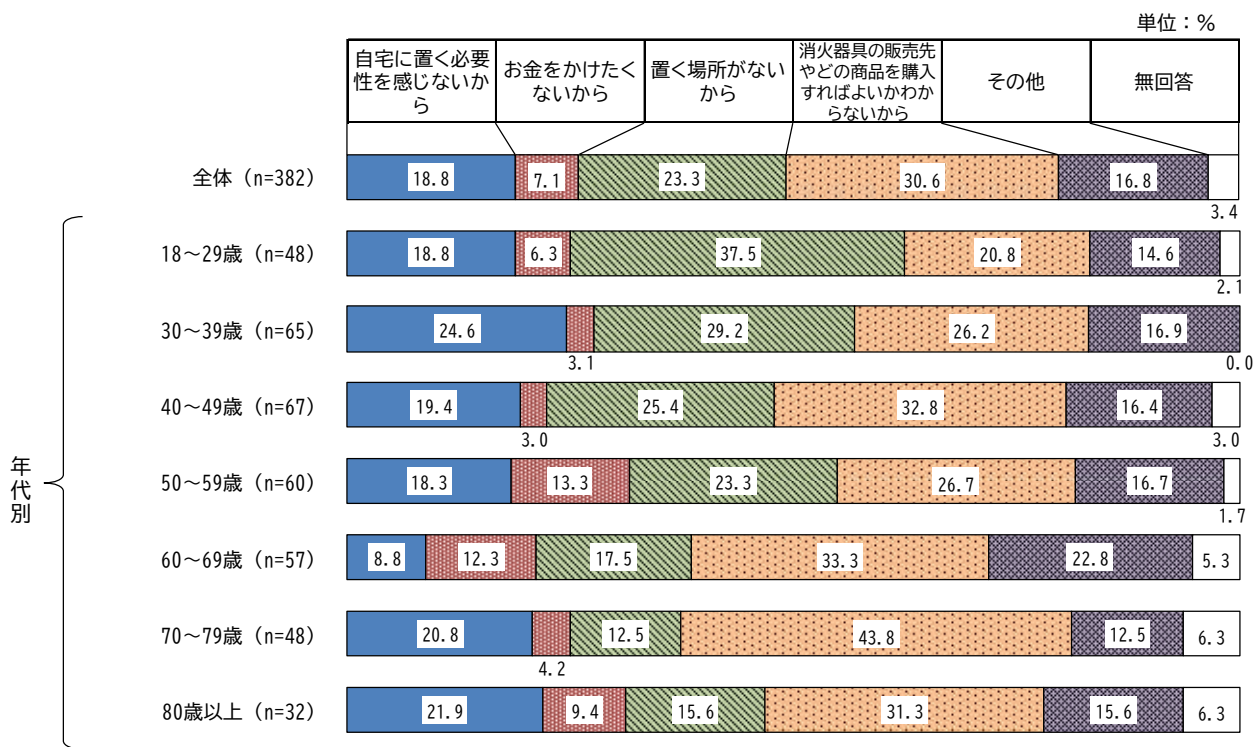
問 11-1 (問 11 で「4 上記のものは置いていない」とお答えの方に伺います)
 消火器具を置いていない理由について、最もあてはまるものをお選びください。
 (○は1つだけ)



消火器具の未保有理由について聞いたところ、「消火器具の販売先やどの商品を購入すればよいかわからないから」(30.6%)が3割と最も高く、次いで「置く場所がないから」(23.3%)、「自宅に置く必要性を感じないから」(18.8%)と続いている。

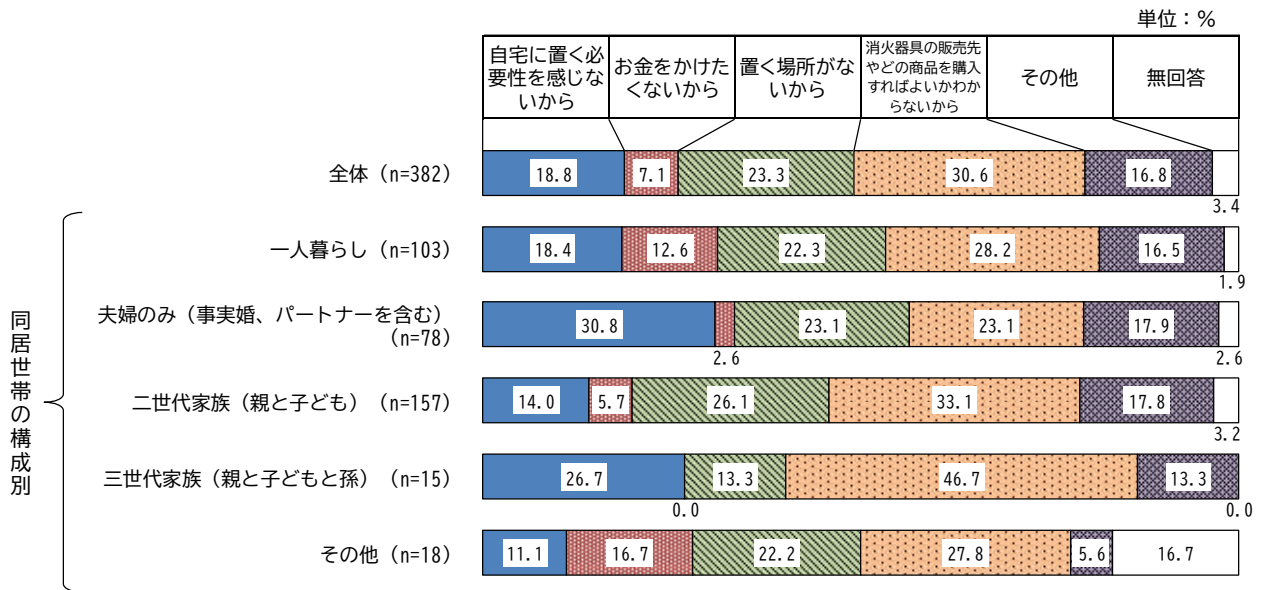
年代別でみると、「消火器具の販売先やどの商品を購入すればよいかわからないから」では、70～79歳（43.8%）が4割半ば近くと最も高くなっている。「置く場所がないから」では、18～29歳（37.5%）が3割半ばを超えて最も高くなっており、年齢層が低くなるほどおおむね割合が高くなっている。

消火器具の未保有理由 年代別



同居世帯の構成別でみると、「自宅に置く必要性を感じないから」では、夫婦のみ（事実婚、パートナーを含む）（30.8%）が3割と最も高くなっている。

消火器具の未保有理由 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、「自宅に置く必要性を感じないから」では、高齢期（25.6%）が2割半ばと最も高くなっている。

消火器具の未保有理由 ライフステージ別

